

令和 6 年度
事業報告書



社会福祉法人 阪南市社会福祉協議会

令和 6 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日

目 次

1. 阪南市社会福祉協議会概要	
(1) 社協の概要	3
(2) 役員名簿	4
(3) 評議員会名簿	5
(4) 組織構成会員名簿	6
(5) 事務局体制	7
2. 会議	
法人運営に関係する会議の開催	8
地域福祉推進に関係する会議の開催①	10
地域福祉推進に関係する会議の開催②	11
阪南市等が主催する会議への参加	12
その他の会議・研修等	13
3. 事業報告	
(1) 法人本部拠点	
地域支え合い活動協力金事業	17
広報誌発行及びホームページ維持管理事業	18
ボランティアセンター事業	19
小地域ネットワーク推進事業	20
福祉農園事業	23
アウトリーチ等機能強化事業	24
日常生活自立支援事業	25
生活困窮者自立支援事業	26
福祉資金貸付事業	28
新型コロナ特例貸付借受人フォローアップ支援事業	29
地域介護予防事業	30
民生委員児童委員協議会事務局事業	31
老人クラブ連合会事務局事業	32
生活支援・介護予防サービス協議体運営事業	33
地域交流館管理運営事業	34
善意銀行事業	35
赤い羽根共同募金運動(一般募金)	36
歳末たすけあい運動	37
阪南市地域交流センター「ふれ愛ホーム」事業	38
阪南市介護者(家族)の会支援事業	39
(2) 地域包括支援センター拠点	
総合相談支援業務	40
権利擁護業務	41
包括的・継続的ケアマネジメント	42
地域ケア会議推進事業	43
介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力	44
在宅医療・介護連携の推進事業	45
介護予防事業普及啓発活動への協力	46
任意事業(介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業)	47
認知症施策の推進	48
介護予防サービス計画の作成(指定介護予防支援事業)	50
認知症啓発業務	51
コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置促進事業	52
その他の会議・研修等	54
(3) 不動産賃貸事業拠点	
不動産賃貸業	58

1. 社会福祉法人阪南市社会福祉協議会概要(令和7年3月31日現在)

(1) 社協の概要

名 称	社会福祉法人阪南市社会福祉協議会
設立年月日	昭和 56 年 3 月 31 日
法人認可	昭和 56 年 7 月 15 日
所 在 地	大阪府阪南市尾崎町一丁目 18 番 15 号
評 議 員	現員数 29 名(1 名欠員)
役 員	【理事】現員数 17 名(内 会長 1 名、副会長 3 名) 【監事】定数 2 名
事 務 局	法人本部(尾崎町一丁目 18 番 15 号) 西鳥取・下荘地域包括支援センター(箱作 3515 番 7)

(2) 役員名簿

令和7年3月31日現在

【任期】 令和5年6月8日から令和7年6月（定時評議員会）まで

【理事定数】 12名以上17名以内

【監事定数】 2名

1 理事名簿

	氏 名	選出母体	備考
1	いづみ かずとし 泉 一敏	阪南市自治会連合会	
2	おおの けいこ 大野 恵子	東鳥取校区 東鳥取地区福祉委員会	
3	こすげ ひろお 小菅 弘夫	上荘校区福祉委員会	
4	こうたき きだみ 上瀧 定三	朝日校区朝日地区福祉委員会	
5	いしばし まさたか 石橋 政隆	尾崎校区 尾崎地区福祉委員会	
6	いわたに てるお 岩谷 輝雄	舞校区福祉委員会	
7	つの よしてる 築野 由照	桃の木台校区福祉委員会	
8	しまづ かつひこ 嶋津 克彦	阪南市商工会	
9	くるまたに まさこ 車谷 雅子	民生委員児童委員協議会	
10	こすげ みちこ 小菅 美知子	阪南市社会福祉協議会ボランティアセンター	
11	にった ますひろ 新田 升啓	阪南市社会福祉施設連絡会	
12	くさたけ やすのり 草竹 靖典	特定非営利活動法人 阪南シニアベンチャークラブ	
13	たなか ちよこ 田中 千余子	阪南市介護者（家族）の会	
14	まつわか りょうすけ 松若 良介	泉佐野泉南医師会	（令和5年6月8日から令和6年8月20日まで）
	たなか あき 田中 亜紀		（令和6年9月19日から令和7年6月（定時評議員会）まで）
15	たけなか ひろこ 竹中 宏子	阪南市 健康福祉部長	
16	ほんだ かずたか 本田 和隆	学識経験者 阪南市地域福祉推進計画作業委員長	
17	みなみ しんいち 南 真一	本会 事務局長	

2 監事名簿

1	いじり けんじ 井尻 健治	税理士	
2	おけたに けんじ 桶谷 建二	社会福祉法人有誠会 下出作業所施設長	

(3) 評議員名簿

【任期】令和3年6月3日から令和7年6月（定時評議員会）まで

【定数】25名以上30名以内

令和7年3月31日現在

領域No.	氏 名	ふりがな	所属機関・団体名	備考
〈領域Ⅰ〉 住民代表的性格のつよいもの	三澤 健二	みさわ けんじ	阪南市自治会連合会	
	吉田 美智子	よしだ みちこ	阪南市連合婦人会	
	南 敏晴	みなみ としはる	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会	
	宮本 佳子	みやもと けいこ	上荘校区福祉委員会	
	石丸 征司	いしまる まさし	朝日校区朝日地区福祉委員会	
	細木 美紀	ほそぎ みき	東鳥取校区波太地区福祉委員会	
	池宮 孝一	いけみや こういち	朝日校区山中溪地区福祉委員会	
	浮田 明	うきた あきら	尾崎校区尾崎地区福祉委員会	
	芝野 重廣	しばの しげひろ	尾崎校区福島地区福祉委員会	
	畑中 富美夫	はたなか ふみお	西鳥取校区福祉委員会	
	藪田 武	やぶた たけし	下荘校区下荘地区福祉委員会	
	斉藤 和夫	さいとう かずお	下荘校区箱作地区福祉委員会	
〈領域Ⅱ〉 福祉専門機関・団体的性格の つよいもの （10名以内）	北野 和子	きたの かずこ	阪南市民生委員児童委員協議会	
	田端 律久	たばた のりひさ	（社福）玉田山福祉会	
	吉川 晃	よしかわ あきら	（社福）大泉会	
	小南 辰之	こみなみ たつゆき	（社福）光生会大阪	
	川端 智代	かわばた ともよ	NPO法人 子どもNPOはらっぱ	
	薫 伸行	かおる のぶゆき	社会医療法人生長会 阪南市民病院	
	南 久美子	みなみ くみこ	一般社団法人 やまなみ福祉会	
	山野 守彦	やまの もりひこ	（社福）阪南福祉会 しいの実こども園	
	森貞 孝一	もりさだ こういち	阪南市教育委員会	
	木村 厚子	きむら あつこ	阪南市更生保護女性会	
〈領域Ⅲ〉 当事者団体的性格のつよいもの （3名以内）	石橋 壽子	いしばし ひさこ	阪南市障がい者（児）団体連絡協議会	
	池田 忠司	いけだ ただし	阪南市老人クラブ連合会	
	池田 昌子	いけだ まさこ	阪南市介護者（家族）の会	
〈領域Ⅳ〉 関連分野・団体 （3名以内）	津田 勝一	つだ かついち	阪南市歯科医師会	
	八田 守也	はった もりや	泉南薬剤師会	
	中井 孝幸	なかい たかゆき	阪南市人権協会	
〈領域Ⅴ〉その他（1名以内）	畑中 譲	はたなか ゆずる	阪南市議会	

(4)組織構成会員

所 属 領 域	番 号	団 体 名
〈領域Ⅰ〉 住民代表的性格のつよいもの	1	阪南市自治会連合会
	2	阪南市連合婦人会
	3	阪南市商工会
	4	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会
	5	上荘校区福祉委員会
	6	朝日校区朝日地区福祉委員会
	7	東鳥取校区波太地区福祉委員会
	8	朝日校区山中溪地区福祉委員会
	9	尾崎校区尾崎地区福祉委員会
	10	尾崎校区福島地区福祉委員会
	11	西鳥取校区福祉委員会
	12	舞校区福祉委員会
	13	下荘校区下荘地区福祉委員会
	14	下荘校区箱作地区福祉委員会
	15	桃の木台校区福祉委員会
〈領域Ⅱ〉 福祉専門機関・団体的性格のつよいもの	16	阪南市民生委員児童委員協議会
	17	社会福祉法人玉田山福祉会 特別養護老人ホーム玉田山荘
	18	社会福祉法人大泉会 特別養護老人ホーム玉井泉陽園
	19	社会福祉法人大泉会 老人保健施設メデケアタマイ
	20	社会福祉法人光生会大阪ビーブルハウス阪南
	21	社会福祉法人友愛の里
	22	社会福祉法人野のはな
	23	社会福祉法人三秀曾 海薺
	24	特定非営利活動法人くらしのたすけあい えぶろんの会
	25	有限会社大城介護サービス
	26	特定非営利活動法人はあとの会
	27	リボン介護サービス
	28	デイ介護サービス リブ
	29	グループホーム白馬
	30	社会福祉法人さくら
	31	グループホームはるすのお家・阪南
	32	医療法人なぎさ会
	33	社会医療法人生長会 阪南市民病院
	34	有限会社ホームヘルプサービスみらい まつのき園・さつき園
	35	社会福祉法人有誠会 下出作業所
	36	社会福祉法人舞福祉会 舞グリーンフレンズ
	37	社会福祉法人ぽけっと福祉会 ワークセンターぽけっと
	38	NPO法人ハートワークひだまり
	39	社会福祉法人根来学園 ワンワン認定こども園
	40	社会福祉法人阪南福祉会 しいの実こども園
	41	社会福祉法人任天会幼保連携型認定こども園 桃の木の森こども園
	42	NPO法人子どもNPOはらっぱ
	43	阪南市役所福祉部長
	44	阪南支部保護司会
	45	阪南市更生保護女性会
	46	公益社団法人阪南市シルバー人材センター
	47	(有)ハルコーポレーション ケアショップ ハル
	48	社会福祉法人レーベンダンク ライフケア尾崎
	49	はいむケアサービス
	50	一般社団法人やまなみ福祉会 生活介護事業所さすな
	51	阪南郷土探究クラブ
	52	株式会社Higashi
	53	一般社団法人 リュウ
	54	(医)蔽下脳神経外科・内科 介護事業所
	55	特定非営利活動法人スウェル
	56	社会福祉法人ブロードハーモニー
	57	特定非営利活動法人地域福祉創造協会ウィンク
	58	株式会社あいケアサーブ
	59	一般社団法人泉州バリアフリー協会
	60	特定非営利活動法人COCOいこっと
	61	一般社団法人こうとく
	62	特定非営利活動法人阪南シニアベンチャークラブ
	63	ディサービス・ミズナス
〈領域Ⅲ〉 当事者団体的性格のつよいもの	64	春風の会
	65	阪南市視力障がい者福祉協会
	66	阪南市聴力障がい者協会
	67	阪南市精神障がい者協議会
	68	阪南市老人クラブ連合会
	69	阪南市介護者(家族)の会
	70	学校に行きたがらない子どもを持つ親の会フラワーズ
	71	あざみ会
	72	阪南市身体障がい者福祉会
〈領域Ⅳ〉 関連分野、団体	73	公益財団法人矯正協会 和泉学園・泉南学寮
	74	泉佐野泉南医師会阪南支部
	75	泉南薬剤師会
	76	阪南市人権協会
〈領域Ⅴ〉 その他学識	77	阪南市議会

(5) 事務局体制



法人運営に係る会議の開催

【理事会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和 6 年 5 月 14 日	1	第 1 号議案 令和 5 年度 事業報告について 第 2 号議案 令和 5 年度 決算書について 第 3 号議案 令和 5 年度 監事監査報告について 第 4 号議案 評議員選任・解任委員会委員1名の選任について 第 5 号議案 欠員評議員候補者及び交代評議員候補者の推薦について 第 6 号議案 令和6年度 第1回定時評議員会の招集について
8 月 20 日	2	第 1 号議案 欠員の副会長1名の選任について 第 2 号議案 令和5年度(第77回)赤い羽根共同募金運動の実施報告及び一般募金実績による令和6年度助成案について 第3号議案 令和6年度(第78回)赤い羽根共同募金運動の実施について 第4号議案 子ども食堂(地域食堂)応援助成金の創設について 第5号議案 令和6年度 第2回臨時評議員会の招集について
10 月 15 日	3	第 1 号議案 令和7年度阪南市当初予算に対する要望について 第 2 号議案 令和6年度第一次補正予算編成について
12 月 10 日	4	第 1 号議案 令和6年度 上半期監事監査報告について 第 2 号議案 令和6年度 第一次補正予算(案)について 第 3 号議案 令和6年度 地域歳末たすけあい運動について 第 4 号議案 令和6年度 第3回臨時評議員会の招集について 第 5 号議案 はんなん健康応援プランについて
令和 7 年 2 月 18 日	5	第 1 号議案 阪南市「一般職の職員の給与に関する条例等」の改正に伴う給与規程の一部改正について 第 2 号議案 令和7年度 当初予算編成の方向性について 第 3 号議案 役員等賠償責任保険契約締結について 第 4 号議案 令和6年度 第4回定時評議員会の招集について
3 月 18 日	6	第 1 号議案 育児・介護休業規程の一部改正について 第 2 号議案 令和6年度 第二次補正予算(案)について 第 3 号議案 令和7年度 事業計画(案)について 第 4 号議案 令和7年度 当初予算(案)について 第 5 号議案 令和7年度 評議員選任・解任委員会の開催について

【評議員会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和 6 年 6 月 13 日	1	第 1 号議案 令和 5 年度事業報告について 第 2 号議案 令和 5 年度決算書について 第 3 号議案 令和 5 年度決算監査報告について 第 4 号議案 欠員理事名の選任について
9 月 19 日	2	第 1 号議案 欠員理事 1 名の選任について 第 2 号議案 令和 5 年度 (第 77 回) 赤い羽根共同募金運動の実施報告及び一般募金実績による令和 6 年度助成案について 第 3 号議案 令和 6 年度 (第 78 回) 赤い羽根共同募金運動の実施について 第 4 号議案 「子ども食堂 (地域食堂)」新設応援助成金について
12 月 19 日	3	第 1 号議案 令和 6 年度 上半期監事監査報告について 第 2 号議案 令和 6 年度 第一次補正予算 (案) について 第 3 号議案 令和 6 年度 地域歳末たすけあい運動について 第 4 号議案 はんなん健康応援プラン支援業務について
令和 7 年 3 月 27 日	4	第 1 号議案 阪南市「一般職の職員の給与に関する条例等」の改正に伴う給与規程の一部改正について 第 2 号議案 育児・介護休業規程の一部改正について 第 3 号議案 令和 6 年度 第二次補正予算 (案) について 第 4 号議案 令和 7 年度 事業計画 (案) について 第 5 号議案 令和 7 年度 当初予算 (案) について

【評議員選任・解任委員会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和 6 年 5 月 21 日	1	議長を選出、評議員の選任 (6 名) について

【監事監査の実施状況】

日 時		議案
令和 6 年 5 月 2 日	1	令和 5 年度 監事監査について
11 月 18 日	2	令和 6 年度 上半期監事監査について

地域福祉推進に関する会議の開催①

(1) 会議概要

名 称	地域福祉推進連絡協議会
開催期間	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日
会議の趣旨	阪南市地域福祉推進計画の策定や進捗管理をおこない、地域福祉推進に関わる公民それぞれの情報交換や意見交換をおこなう
構成員	公募市民、各種団体代表、校区福祉委員会、行政関係課、関係機関等
参 加	社協会長、副会長、事務局長、事務局次長、地域福祉 G 主任

(2) 開催実績

日 時	名 称	主 な 内 容
令和 6 年 7 月 19 日 (水)14:30～16:30	第 1 回阪南市 地域福祉推進 連絡協議会	1. 会長及び副会長の選出 2. 地域福祉について(学習) 3. 第4期地域福祉推進計画及び同実施計画の進捗管理について
令和 7 年 3 月 19 日 (火)14:00～16:00	第 2 回阪南市 地域福祉推進 連絡協議会	1. 阪南市地域まちづくり協議会について
令和 7 年 1 月 30 日 (月)14:00～16:00	第 1 回阪南市 地域福祉推進 計画作業員会	1. 阪南市のまちづくりについて

地域福祉推進に係る会議の開催②

(1) 会議概要

名 称	校区長・事務長会議
開催期間	令和6年5月～令和7年3月(奇数月 年6回開催)
会議の趣旨	福祉委員会の主要な役員である校区長・事務長を対象に、社協事業や校区(地区)福祉委員会活動に係る情報提供や意見交換をおこなう。また、6回の会議の内、1回はボランティアコーディネーターも参加いただき情報交換をおこなう。
構成員	各校区(地区)福祉委員長、事務長、ボランティアコーディネーター、社協会長、副会長、ボランティアセンター長、事務局
参 加	事務局長、事務局次長、各グループ主任・所長、地域担当職員、地域包括支援センター職員

(2) 開催実績

日 時	主な内容
令和6年5月10日	(1) 令和6年度地域支え合い活動協力金について (2) 尾崎地区福祉委員会より活動紹介
令和6年7月12日	(1) 第21回「日本地域福祉学会地域福祉優秀実践賞」受賞報告 (2) 気象警報発令時の校区福祉委員会活動(事業)の取り扱いについて (3) 令和6年度(第77回)共同募金運動実施について (4) 令和6年能登半島地震における災害支援の報告 (5) 上荘校区福祉委員会より活動紹介
令和6年9月13日	(1) 令和6年度(第78回)共同募金運動実施について (2) 令和7年度阪南市当初予算への要望について (3) 地域福祉研修について (4) 「ぼれぼれ広場」(阪南市市民活動センター受託団体)より活動紹介
令和6年11月8日	(1) 令和6年度歳末たすけあい運動について (2) 子どもミライ会議(舞っ子食堂実施主体)より活動紹介
令和7年1月10日	(1) はんなん健康応援プランについて (2) 社会福祉法人 玉田山福社会 たまだやま荘より活動紹介
令和7年3月14日	(1) 令和7年度 介護予防事業について (2) 各種年次報告提出の依頼について (3) 次期役員及び評議員の地区選出について (4) 泉南学寮グリーンサポーターより活動紹介 (5) 大阪公立大学より協力依頼

阪南市等が主催する会議への参加

(1) 会議概要

名 称		所 管	担当
全 般	阪南市赤十字奉仕団 副団長	日本赤十字社大阪府支部（市 危機管理課）	会長・副会長
	地域医療を共に創る会（休会中）	市健康増進課	会長・副会長
	阪南市総合計画審議委員	政策共創室	会長
	阪南市自治基本条例推進委員	政策共創室	田中副会長
	阪南市防災会議	市危機管理課	会長
	阪南市人権協会	阪南市人権推進課	会長
	阪南市人権擁護に関する審議会	阪南市人権推進課	車谷副会長
	阪南市シルバー人材センター 理事	シルバー人材センター	会長
	大阪府共同募金会 評議員	大阪府共同募金会	会長
	阪南地区募金会 会長	大阪府共同募金会	会長
	阪南市社会教育委員会	生涯学習推進室	会長
	阪南市立公民館運営審議会委員	生涯学習推進室	局長
	阪南市事業所人権問題連絡会	生活環境課	局長
	阪南市献血推進協議会	健康増進課	局長
	泉佐野所生活保護受給者等就労自立促進事業協議会	ハローワーク泉佐野	局長
	阪南市安全なまちづくり推進協議会	生活環境課	局長
	阪南市健康づくり推進協議会	健康増進課	局長
	阪南市子ども読書活動推進協議会	市立図書館	置田
	市町村社協連合会（会長・事務局長会） （泉州ブロック会議）	大阪府社協	会長・局長 熊抱
高 齢	阪南市介護保険運営協議会		
	阪南市地域密着型サービス運営委員会	介護保険課	会長・大塚
	阪南市地域包括支援センター運営協議会		
障 が い	阪南市医療と介護の多職種連携会議	介護保険課	熊抱
	阪南市障害者施策推進協議会	市民福祉課	局長
児 童	阪南市子ども子育て会議	市民福祉課	熊抱
	阪南市子ども子育て会議	子ども家庭課	田中
	阪南市要保護児童対策協議会代表委員	子ども家庭課	局長
	阪南市（仮称）子どもの権利に関する条例検討委員会	学校教育課	局長
	泉鳥取高校学校協議会	泉鳥取高校	坂上

その他の会議・研修等

対外的な視察受け入れ・事例発表等

【視察・ヒアリング受け入れ】

日 程	名 称	対 応
9 月 18 日	大阪公立大学・アンドリュース大学インターンシップ受け入れ 「阪南市の地域づくり、舞シニアサポート」	猪俣、熊抱
10 月 4 日	美作大学・津山市・美咲町視察受け入れ 「地域福祉を基盤とした重層的支援体制整備事業」	猪俣、熊抱
10 月 11 日	大阪公立大学山野ゼミ 「泉南学寮グリーンサポーター」	猪俣
11 月 6 日	鳥取県市町村社協先進地視察研修 「阪南市の地域福祉実践について」	南局長、猪俣、熊抱
11 月 14 日	河内長野市楠小学校区福祉委員会視察受け入れ 「子ども福祉委員の取り組み」	桃の木台校区、猪俣
12 月 12 日	堺市社協視察受け入れ 「泉南学寮グリーンサポーターの取り組み」	猪俣、熊抱
1 月 20 日	瀬戸内市理事評議員視察受け入れ 「住民主体の地域福祉実践、農福連携・漁福連携について」	南局長、熊抱、猪俣
2 月 4 日	早稲田大学法学学術院 教授 菊池 馨実氏 視察受け入れ 「阪南市の地域づくりについて」	猪俣、熊抱
2 月 17 日	三股町社協（宮崎県社協） 「地域課題解決のための実践研修（特別研修）」	猪俣、熊抱、置田
2 月 26 日	奈良県内社協職員連絡会先進地視察研修 「子ども福祉委員の取り組み・漁福連携について」	南局長、猪俣、中口
2 月 27 日	明星大学 「認知症の人が暮らしやすい地域づくり」	猪俣、大塚、西崎
3 月 14 日	大阪公立大学・アンドリュース大学インターンシップ受け入れ 「阪南市の地域づくり、エプロンプロジェクト」	猪俣、熊抱、中口、置田
3 月 28 日	星槎道都大学 「重層的支援体制整備事業や農福連携について」	猪俣、熊抱

【事例報告等】

日 程	名 称 (主催／場所)	登壇者
5 月 8 日	大阪公立大学 社会福祉実習指導2 講義 「阪南市の福祉教育実践について」	猪俣
6 月 16 日	日本地域福祉学会第 38 回大会(東京大会) 「地域福祉優秀実践賞」受賞報告 「官民協働の地域福祉計画を基軸とした住民の主体形成と 開発的実践」	猪俣
7 月 9 日	生活支援課 CW 研修 「生活困窮者自立支援制度および家計改善支援事業につ いて」	阪南市松阪、齋 藤
7 月 22 日	大阪人間科学大学 ソーシャルワークの理論と方法1 講義 「社会福祉協議会の概要とソーシャルワーク実践」	熊抱
7 月 23 日	日本 NPO センター 「ともに市民社会をつくる学びのコミュニ ティ ともしび NPO 支援者コース 第1回 NPO 支援者の仕 事と姿勢 ～支え合いを創り出す～」	猪俣
7 月 30 日	宮崎県社協 市町村社協一般職員研修 「住民とともに地域課題と向き合うコミュニティワーク実践」	猪俣
9 月 10 日	大阪府社協 共生・福祉のまちづくり(ソーシャルインクルー ジョン)研修会 「地域共生社会の実現に向けて～立ち直り ×地域貢献の先駆的取組み～」	熊抱、坂上
9 月 30 日	厚生労働省 第4回地域共生社会の在り方検討会議 「参考人報告 阪南市の重層的支援体制整備事業」	阪南市金田氏、 猪俣
11 月 8 日	大阪ええまちプロジェクト 「市町村向け地域づくり研修」	熊抱
12 月 6 日	大阪府社協 市町村社協中堅職員研修会 「コミュニティワーク実践事例について」	猪俣、熊抱
2 月 6 日	和歌山県都市福祉事務所長連絡協議会 「阪南市の重層的支援体制整備事業」	阪南市、金田 氏、猪俣
2 月 6 日	令和 6 年度泉州地区生活困窮者自立支援制度研修会 「ひきこもりの方が中間就労につながるまで」	齋藤
2 月 9 日	大阪府ヤングケアラー支援に関する府民向けシンポジウム 「地域で共に創る「みんなの居場所」の実践」	猪俣

【メディア掲載】

日時	名称	対応
12 月 1 日	『ふくしと教育 41 号』原稿執筆「子どもを育む多職種協働 子ども・若者が輝くまちをめざして～大阪府阪南市社協にお ける若者が主役になる福祉教育・ボランティア学習実践」	猪俣・熊抱・置 田
12 月 1 日	『月刊福祉 2024 年 12 月号』座談会記事掲載 「更生保護と地域福祉をつなぐために」	猪俣

人権研修

日程	名 称 （主催／場所）	参加者
7 月 23 日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「アンコンシャス・バイアスとは？」 (阪南市、人権協会他／サラダホール)	濱中、堂前、辻
8 月 9 日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「心のバリアフリー 誰もが幸せな社会に」 (阪南市、人権協会他／サラダホール)	渡辺、西浦、中口
8 月 23 日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「認知症の人が安心できる社会はすべての人にとって安心な社会」(阪南市、人権協会他／サラダホール)	吉川、吉村、田辺

階層別研修・事業別研修 （※地域包括分は後述）

日 程	名 称 （主催）	参加者
7 月 5 日	令和 6 年度大阪府生活困窮者自立支援制度人材養成研修	赤坂
7 月 19 日	令和 6 年度大阪府生活困窮者自立支援制度人材養成研修	赤坂
7 月 23 日	関係機関職員研修会	赤坂
9 月 6 日	日常生活自立支援事業 生活支援会議・担当者会議・	田中、田辺
9 月 17 日	令和 6 年度大阪府生活困窮者自立支援制度人材養成研修	赤坂、田中
10 月 11 日	令和 6 年度 市町村社協中堅職員研修会 1 日目	中口
10 月 18 日	令和 6 年度居住支援勉強会	赤坂、田中
11 月 9 日	第 11 回生活困窮者自立支援制度全国研究交流大会	田中、齋藤、檜葉
11 月 19 日	ひきこもり支援に携わる人材の養成研修	田中、齋藤
11 月 29 日	令和 6 年度 市町村社協中堅職員研修会 2 日目	中口
12 月 6 日	令和 6 年度 市町村社協中堅職員研修会 3 日目	中口
12 月 23 日	日常生活自立支援事業 生活支援員会議・担当者会議	川岸、田辺、加賀
令和7年 2 月 12 日	生活困窮者自立支援制度支援ツール活用セミナー	田中、齋藤、赤坂、檜葉
2 月 28 日	令和 6 年度 生活福祉資金担当者研修会	田中
3 月 10 日	生活困窮者自立支援制度支援員のための育ちのガイドブック	赤坂、檜葉
3 月 11 日	日常生活自立支援事業 担当者会議	田中、川岸、田辺
3 月 18 日	高次脳機能障がい研修会	加賀

職員会議（職場内研修）

日 程	名 称 （主催）	参加者
令和6年 4 月 23 日	全体共有・学習 『社協基本要項について』	4月・8月・12月は全員参加／他は全部署から交代で出席
5 月 28 日	テーマ学習 『福祉教育の心得』	
6 月 25 日	テーマ学習 『ゲーム教材を通じた防災学習』	
7 月 23 日	ゲスト講義 『福祉教育について』講師 新崎国広先生	
8 月 27 日	※台風接近のため中止	
9 月 24 日	テーマ学習 『七尾市災害ボランティアセンター運営支援報告』	
10 月 22 日	テーマ学習 『孤独・孤立について』	
11 月 26 日	ミニプレゼン 生活支援 G 職員	
12 月 24 日	全体共有・学習 『介護予防について』	
令和7年 1 月 28 日	ミニプレゼン 地域包括 G 職員	
2 月 25 日	ミニプレゼン 権利擁護 G 職員	
3 月 25 日	テーマ学習 『1年の振り返りワーク』	

地域支え合い活動協力金事業（法人運営事業）

（１）事業概要

広く阪南市民に社協事業、地域福祉活動の理解を広め、協力金（会費）の拠出、会員への参加をもって地域福祉に参画していただく事業で、地域での福祉事業を進める際の貴重な財源となっています。なお、多くの住民・団体・事業者が会員として参加していることによって社協組織の公共性が保たれることになり、社協にとっては組織の性格上、最大限に重きを置く事業です。

○推進期間

令和 6 年 6 月 1 日～11 月 30 日 （※実施期間は通年）

○配分割合

実績の 5 割・・・校区（地区）福祉委員会

実績の 5 割・・・社会福祉協議会

（２）実施内容・実績

区 分	金 額	件 数	実績額
組織構成会員	6,000	74	444,000 （昨年度：450,000）
個人 A	500	1,635	817,500 （昨年度：1,361,500）
個人 B	1,000	437	437,000 （昨年度：604,000）
個人 C	2,000	141	282,000 （昨年度：476,000）
個人 D	5,000	14	70,000 （昨年度：100,000）
個人 E	10,000	11	110,000 （昨年度：90,000）
法人 A	5,000	31	155,000 （昨年度：130,000）
法人 B	10,000	25	250,000 （昨年度：270,000）
協力金	—	—	1,113,850 （昨年度：597,078）
特別賛助会員 A	3,000	1	3,000 （昨年度：3,000）
その他	500	2	1,000
計			3,683,350 （昨年度：4,081,578）

※「会員に関する規程」第 4 条 3 項 1 号と 2 号に掲げる会員からは会費を徴収していません。

（３）成果・評価

校区（地区）福祉委員会や自治会、市民の協力を得て実施することができました。組織構成会員は新規で 2 団体が入会され、合計 77 件となっています。市外の方の会員枠である特別会員は、引き続き継続して協力をいただいております。

（４）課題・今後の方針

いかに社協や福祉委員会活動について理解をいただき、協力をいただけるかが課題です。しっかりと日々の活動や事業の PR をする必要があります。

今年度は、組織構成会員に 77 団体が構成員になっていただきましたが、今後は 100 団体を目標に施設連絡会や市民活動団体等へ声かけをしてまいります。

また、社協広報誌やホームページ、Instagram 等で社協や福祉委員会活動を積極的に紹介し、阪南市外からも会員になっていただく特別会員の周知を進めていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
3,316,198 円	会費収入	昭和 54 年度

広報紙発行及びホームページ維持管理事業（法人運営事業）

（１）事業概要

社協事業や福祉委員会活動、暮らしに役立つ情報、また地域福祉活動の大きな担い手であるボランティア活動に関する情報を広報紙、ホームページ、Instagramにより発信した。

（２）実施内容・実績

業務	実績（内容）
社協広報紙「ふくしはんなん」の発行	年４回発行 （第 159 号、第 160 号、第 161 号、第 162 号） 部数 23,900 部（全戸配布）
ふくしはんなん編集会議の開催	発行ごとに２回 年８回
ホームページの管理運用	各ページ・ブログを随時更新 運営支援の業者による運用のための相談会を年２回実施
Instagramの管理運用	令和６年７月アカウント設立 現在フォロワー：265 地域のイベントや地域福祉活動情報を随時発信

（３）成果・評価

- ・社協広報紙「ふくしはんなん」の内容を編集委員と共に検討することで、市民に見やすくわかりやすい広報紙を心掛け「見える社協づくり」を目指しました。
- ・「赤ちゃん写真」への応募が引き続き好評で、読者層の拡大につなぐことができました。
- ・全８ページ、うち４ページを２色刷り、４ページをカラー刷りにし、より読みやすい紙面作りを目指しました。
- ・地域福祉活動をはじめ、図書館、子ども福祉委員、ボランティアセンター、地域包括支援センターなどの記事を掲載することで、幅広い年齢層にも対応した情報を伝えることができています。
- ・ホームページ・ブログを活用し取組みの発信を行いました。
運営支援の業者による相談会を受け内容を見直すなど、さらに「見える社協づくり」に向けた内容の充実に取り組むことができました。
- ・新たにInstagramアカウントを設立しました。
社協事業や地域のイベント情報が多世代の方々に届けるため、発信しました。

（４）課題・今後の方針

- ・幅広い世代に、より見やすく、よりわかりやすく社協事業を伝えるため、ウェブページを大いに活用します。広報紙、ホームページ、Instagramを通して身近な地域の情報を発信し、地域密着の福祉意識が芽生えるきっかけづくりを行っていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
2,090,888 円	経常経費補助金収入等	昭和 59 年 12 月

ボランティアセンター事業

(1) 事業概要

地域における多様な福祉問題に対応するため、ボランティアセンターの運営強化や若年層や地域活動者への福祉教育、新規活動者の開拓を目指します。

また、専門性のあるボランティア養成の場を活用し、必要に応じたボランティア活動を支援すると共に、校区（地区）福祉委員会等の地域に根ざした活動団体と NPO、市民活動団体等が力を合わせ協働できる地域福祉活動を展開します。

(2) 実施内容・実績

◇ボランティア登録者数 131 名、ボランティアグループ登録 31 グループ、特技ボランティア 6 名、サポートボランティア 11 団体

◇ボランティア相談件数 42 件、ボランティアコーディネート件数 23 件、運営委員会の開催 4 回

◇ボランティアコーディネーター連絡会の開催 3 回 延べ 53 名参加

8 月 9 日（金）1 月 29 日（水）3 月 19 日（水）

◇ボランティアグループ連絡会 参加団体：11 グループ

1 月 31 日（金）：・各グループで取り組まれている活動内容や活動中の悩みについて

◇夏休みボランティア DAY 実施期間：令和 6 年 7 月 25 日～8 月 23 日 延べ 76 名参加

①7 月 25 日（木）：事前説明会 ②7 月 28 日（日）：地域内の夏祭りを盛り上げよう

③8 月 4 日（日）：子ども向け「すすく塾夏祭り」のお手伝い

④8 月 6 日（火）：地域住民の憩いの場「まちなかサロンカフェ」のお手伝い

⑤8 月 7 日（水）漁港を舞台にした「みんなの食堂」のお手伝い

⑥8 月 9 日（金）：子どもとのふれあい体験

⑦8 月 21 日（水）：アートでボランティア ～福祉農園の看板を作ろう！

⑧8 月 23 日（金）：ふり回り会&パネル作成

※小学生：1 名、中学生：4 名、高校生：18 名、大学生：1 名、保護者：1 名、一般参加：3 名

◇ボランティア★ひろば 21 名参加

2 月 7 日（金）「コロナ禍が明けてからのボランティア活動」をテーマにした学習会と交流会

◇第 18 回ボランティア・市民活動フェスティバル 日時：3 月 8 日（土）9：30～15：00

※阪南市地域交流館との共催

参加：約 800 人 協賛：企業・団体からの協賛金＜80 口：240,000 円＞

ボランティアフェスティバル実行委員会の開催 6 回 委員 17 名

◇カフェはなてい運営支援（尾崎公民館との協働事業）

令和 6 年 4 月 5 日～令和 7 年 3 月 28 日 延べボランティア人数 234 人 延べ利用人数 889 人

(3) 成果・評価

- ・ボランティアセンター運営委員会で意見をいただきながら、学生から高齢者まで幅広く地域福祉活動の担い手づくりを行いました。
- ・ボランティアを受け入れたい施設とボランティアをしたい方とのニーズマッチングをするとともに、両者へアンケートを取り、よりボランティア活動が活性化するきっかけづくりに取り組みました。

(4) 課題・今後の方針

- ・「コロナ禍以前につながっていたつながりが途絶え、活動先が減った」という声があがっています。活動の見える化を行い、ボランティア活動を通したつながりの再構築に取り組みます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
493,251 円	印刷機手数料、プルタブ収集、フェスティバル協賛金、法人繰入金	昭和 58 年度

小地域ネットワーク推進事業

(1) 事業概要

阪南市より補助事業を受け事業実施しています。

住民が主体となり、誰もが安心安全に住み暮らしあえる地域共生社会づくりを推進します。住民のニーズ把握や課題提起、新たな支援活動へとつなげるほか、問題の早期発見・予防、要援護者の精神的な支えとなって地域から孤立することを防ぎます。戸別訪問活動や誰もが集える居場所づくり等とともに支え合う活動として、住民交流、生きがい、健康づくり、見守りネットワークづくりなどの事業を、12校区の校区福祉委員会や各種団体の協働のもと実施しています。

(2) 実施内容・実績

◆コミュニティワーカー（地区担当職員）による福祉委員会支援

- ・職員による地区担当制をとり、福祉委員会の組織運営や活動運営に参画し、運営への助言や関係機関との連絡調整、事務支援などを行いました。
- ・必要に応じて、地域活動へ参加し、専門的視点で活動のあり方、福祉課題等を把握しました。
- ・委員会：概ね年1～6回程度×12校区、役員会：概ね年10回程度×12校区
- ・当事者、関係機関団体、事業者、行政等との連絡調整を行いました。

◆ワーカーの資質向上・情報共有

- ・コミュニティワーカーとして、地域支援の技術向上や方法を学ぶため、研修会等に参加しました。

日時：令和6年10月11日「コミュニティワーク機能と役割について」

令和6年11月29日「チームリーダーとしての心構えについて」

令和6年12月6日「コミュニティワーク実践事例について」

実践報告：猪俣・熊抱 研修参加：1名

◆12校区（地区）福祉委員会概況（※）ボランティア数は福祉委員との重複を除いた実数を集計

校区（地区）名	委員数	ボランティア数	事務局拠点
東鳥取	65	0	東鳥取地区福祉委員会事務局
上 荘	47	0	上荘校区福祉委員会事務局
朝 日	21	19	なし
波 太	25	5	なし
山中溪	52	0	なし
尾 崎	36	6	阪南市地域交流館内
福 島	25	6	尾崎小学校旧保健室
西鳥取	46	0	なし
舞	72	34	あたごプラザ
下 荘	46	31	なし
箱 作	39	28	なし
桃の木台	33	18	なし
合 計	507	147	

◆12 校区（地区）福祉委員会活動実績（介護予防活動除く）

・地域の各種団体代表や趣旨賛同者等で構成される福祉委員やボランティアが中心となり、以下の活動を実施しました。

活動名	実施回数	延べ参加者数	延べボランティア数
いきいき健康教室	14 回	207 人	88 人
ミニデイサービス	1 回	25 人	6 人
ひとり暮らし高齢者食事会 (配食活動も含む)	41 回	1,246 人	438 人
世代間交流	55 回	1,777 人	487 人
子育てサロン	36 回	947 人	190 人
まちなかサロン (※)	88 回	1,326 人	272 人
まちなかカフェ (※)	258 回	6,525 人	1,971 人
地域美化活動	60 回	611 人	668 人
個別訪問活動	928 回	2,869 人	554 人
個別電話活動	434 回	859 人	545 人
講座・勉強会	22 回	420 人	296 人
茶話会	12 回	614 人	140 人
その他	445 回	5,348 人	1,872 人
合 計	2,394 回	22,774 人	7,527 人

(※) まちなかサロンカフェは福祉委員会が主催するもののみ。それ以外含む集計は以下に掲載。

◆まちなかサロン・カフェの推進

- ・まちなかサロン運営支援、必要に応じて情報提供などを実施しました。
- ・まちなかサロンカフェマップ情報を随時更新し、紙媒体や SNS で関係団体へ周知しました。

【実施状況】

年度	校区（地区）数	開催か所数	開催回数	年間延べ参加者
令和 6 年度	11	43	967	23,507

◆まちなかサロン・カフェネットワーク連絡会の運営

- ・まちなかサロン・カフェネットワーク連絡会「語ろう！まちなかサロンカフェ」の開催。
日時：令和 6 年 10 月 29 日（火） 14:00～16:00 参加者：40 名
- ・加盟団体と調整し登録情報の更新をしました。加盟団体 43 団体（福祉委員会や自治会等）

◆活動者・関係者の情報交換や研修

- ・校区長・事務長・ボランティアコーディネーター会議の開催。年 6 回、12 校区（地区）の委員長、事務長を参集し連絡会議の開催。課題の共有や情報提供をしました。
(ボランティアコーディネーターは、初回のみ出席) 参加者：237 名
- ・小地域ネットワークリーダー研修会への参加。参加者：3 名

(3) 成果・評価

普段の取組みの情報や今後の福祉委員会活動について、年6回の校区長・事務長会議（内1回はボランティアコーディネーターも参加）を開催しました。新たな取り組みとして、阪南市内で地域福祉活動を推進している団体とつながる場づくりをコーディネートしました。

12校区・地区福祉委員会活動以外の実践を知り、団体同士の連携・協働につながりました。（参加団体：ぼれぼれ広場・子どもミライ会議・たまだやま荘・泉南学寮グリーンサポーター）

また、昨年度のフォーラムにて「もっと意見交換をしたい」という声を受け、担い手同士の意見交換・交流を目的とした連絡会を開催することができました。

連絡会では他の活動を聞いた参加者より「各カフェのいいところを取り入れたい」「どのサロンカフェも問題が多いが、続けていくことが大切で、また今回のような交流会議が参考になりました」という思いや感想が出た。今後挑戦していきたいこととして「お互いのサロンの交流と他のカフェを見学したい」「担い手の確保の面でも若い人が参加できるカフェにするためにいろいろと勉強しないといけないと思った」と今後の活動に向けて前向きな気づきがありました。

引き続き、身近な地域での居場所作りの充実のため、運営支援や立ち上げ支援を行います。

また、既存の活動を大切にしながら、対象者や実施場所にとらわれない多様な方々が参加することができる居場所作りを他事業・専門職と協働し、より一層進めていきます。

(4) 課題・今後の方針

現在、地域福祉活動を担う人材の不足が大きな課題となっています。この課題を解決していくためには、多様な立場の人々が連携・協力し、世代や分野を超えてつながりを築くことがこれまで以上に重要です。学びの場の充実とともに、情報交換の機会や場を積極的に設け、担い手同士のネットワークづくりにも注力していきます。

また、地域ごとの課題に応じて、活動する方々の想いや地域住民の暮らしに寄り添った支え合い、助けあいの地域づくりを実現するため、多世代、多分野、しいては福祉分野以外とも協働できる場づくりを住民の主体性を大切にともに進めていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
25,407,655 円	・ 市小地域ネットワーク事業補助金 ・ 参加費収入 ・ 雑収入	平成10年度

福祉農園事業

(1) 事業概要

社協が有する田畑で、高齢者や障がい者（児）、地域住民、支援者が農園での共同作業および社会参加を通じて、互いにやりがいや生きがいを高め、相互理解および親睦、健康増進を図る活動を展開します。

(2) 実施内容・実績

住民が主体となった農園運営

地域住民が中心となって整地、苗植え活動を実施しました。

4月1日～3月31日

<苗>

玉ねぎ、南瓜、さつまいも、じゃがいも、子芋、ヤーコン、ヤーコン、にんにく、はっさく等

様々な世代の「参加の場」として野菜・果物の栽培

多世代のさつまいも掘り交流会

9月30日（金）59人参加

収穫した野菜・果物の「地域循環」

収穫した野菜等を、市内の子ども食堂への寄附。生活困窮者への食糧支援、寄付つき商品として販売しました。

- ・食料支援を子ども食堂へ実施
- ・生活困窮者への食糧支援を4月～1月まで実施
- ・寄付つき商品として野菜等を632袋販売。寄付金額122,074円

(3) 成果・評価

- ・生活困窮者自立支援相談員が関わる住民さん（生活困窮、地域で孤立する青年）に農園活動の担い手として声かけし参加を促しました。参加後、支援する専門職より、「普段あまり話さないのに、参加しているひきこもり支援の居場所の方々にも農園へ参加したことを伝えたそうです。さらに収穫した野菜を誰かにあげたくて仕方なく、いつも後ろ向きだった彼が、前向きに物事をとらえられるような変化が見てとれました」（生活困窮者自立支援相談員）との声をいただきました。
- ・野菜や果物を子ども食堂への寄付や寄付つき商品として販売することで、寄付文化の醸成につながりました。

(4) 課題・今後の方針

- ・農園活動継続のため、新たな活動者の掘り起こしが必要です。専門職による参加支援の促進、活動の見える化による協力者を増やす広報活動、さらに農園ボランティア（応援者）の養成に取り組む、持続可能な農福連携をめざして地域づくりを実践していきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
5,000,000 円	大阪府福祉基金地域福祉振興助成金、法人繰入金	令和2年度

アウトリーチ等機能強化事業

(1) 事業概要

アウトリーチ等の充実を図り、社会参加に向けたより丁寧な支援を必要とする方に対して、家族等から積極的に情報把握し、早期に支援につなげます。また、集中的に関することで、自立支援を強化します。本事業は、重層的支援体制整備事業の一環であることから、他機関と協働し包括的な支援体制の構築に向けた事業を実施します。

(2) 実施内容・実績

【内容】

○本人、家族からの相談対応（来所・訪問・電話・メール）

○会議、研修、講座への出席

【実績】

○令和6年度相談支援件数24名（うち新規12名、継続12名）

- ・（年代）：20代3名、30代5名、40代7名、50代5名、60代1名、90代1名、不明2名
- ・（本人が抱える主な課題）：社会的孤立、ひきこもり、コミュニケーションが苦手、メンタルヘルス、障がいの疑い、生活習慣の乱れ
- ・（支援方法）
訪問92回、来所面談33回、電話26回、メール55回、手紙11回、同行支援21回
物品支援3回、ケース会議出席4回

○会議、研修、講座等への出席

- ・草の根ネットワーク会議、CSW連絡会議、ひきこもり支援広域連携チーム研修会、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築のための保健・医療・福祉関係者による協議の場、ひきこもり支援に携わる人材研修、泉州トリガーフェス等

(3) 成果・評価

- ・広報紙やホームページでひきこもり相談窓口の周知を行った結果、家族や他機関からの相談が増えました。
- ・市民活動センターやふくし農園と連携し、本人の居場所づくりを支援しました。家族や関係者以外と交流をもつことで、本人の自信につながりました。
- ・ひきこもり状態であった本人の目標に寄り添い、その状況に応じた支援等を継続し、就労に向けて生活困窮者自立支援制度につなぎ、就労準備支援事業の利用を開始しました。
- ・研修会でひきこもり支援の課題について共有することで、今後の支援の展開についてヒントを得ることができました。

(4) 課題・今後の方針

○家族と本人の目標に差があり、家族の望む目標にいたらないため支援が終了するケースがあります。本人と家族の方向性をすり合わせ、双方の理解が深められるよう関わります。また、その時々
の状態に合わせた提案や情報提供を行います。

○今後、より他の支援機関との連携を構築し、本人や家族に寄り添った支援を行います。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
4,588,000 円	市受託金	令和5年4月

日常生活自立支援事業

(1) 事業概要

認知症、知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分でない方の生活や金銭管理を支える権利擁護支援と、利用者自身による決定をお手伝いする意思決定支援を行います。利用者の意思を尊重しながら、関係機関と連携を図り、利用者が望む生活に向けて福祉サービス利用援助、日常的な金銭管理、大切な定期預金通帳や書類等の保管サービスを提供します。

(2) 実施内容・実績

- ・制度についての問い合わせ 新規相談対応
- ・支援計画に基づいた生活費等の金融機関での入出金
- ・家賃、光熱費等の支払・振込対応
- ・市役所等での手続き書類作成のお手伝い
- ・成年後見制度へのつなぎ
- ・契約、支援計画変更、契約終了手続き
- ・訪問、来所による生活費等の手渡し
- ・関係機関との連絡調整、ケース会議や研修会への参加
- ・通帳や証書の預かりサービス
- ・大阪府社会福祉協議会への定期的な報告、会議の参加

利用者数（令和7年3月末時点）： 51名（内訳：認知症高齢者11名、知的障がい21名、精神障がい19名）

	相談援助	定期支援		契約	終了		件数
認知症高齢者	584	286	認知症高齢者	4	3	問合せ (制度・事業について)	8
知的障がい者	416	420	知的障がい者	3	2	初回相談 (初回相談受付)	33
精神障がい者	869	531	精神障がい者	3	2	契約前訪問相談	44
その他	7	0	その他	0	0		
合計	1,876	1,237	合計	10	7		

(3) 成果・評価

- ・金銭管理や相談の対応を通じて、利用者が安心して生活を送るための支援を行うことができました。また、生活が安定したことで利用者の選択肢も増え、生活に意欲的になりました。
- ・利用者の転居や死亡に伴い、関係機関への引継ぎや親族への保管物品の返還を行いました。
- ・利用者の状況により、成年後見制度を案内して積極的に制度の利用へ結びました。
- ・初回相談後、速やかに事業説明し対応したため、待機者は0名でした。
- ・地域包括支援センター、障害者相談支援事業所と阪南市での支援の中で感じた地域の課題を話しあい、それぞれの立場や関わり、専門性から意見を出し合いました。

(4) 課題・今後の方針

- ・身寄りのない利用者が増え、最後まで安心して生活できる支援が課題になっています。
- ・消費者問題や虐待ケースの対応が増え、権利擁護の関わりが増々必要となってきました。
- ・利用者の死後、生前に発生した費用の支払いなど最低限の死後の事務を行うことのできる「特約」を導入し、病院やサービス実施機関、地域の信頼関係に応える必要があります。
- ・利用者の生活状況や希望、困りごとなど、「身上保護面に関する記録」をグループ内で共有、引継ぎすることで、利用者が不利益を被らないよう努める必要があります。
- ・支援計画の評価を実施し、「本人が自分で決める」自己決定支援に取り組みます。
- ・新規相談が増加しています。速やかな初回訪問で、本事業の対象なのか、成年後見制度等他の制度が適切なのかを判別し、早期の支援につながるよう努めます。また、新規相談や契約件数の増加に対応するため、本事業としての支援体制や関係機関との連携のあり方等の見直しも検討します。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
8,133,300 円	市補助金、府社協受託金、利用料収入	平成12年度

生活困窮者自立相談支援事業

(1) 事業概要

阪南市が実施主体となって、公民協働による地域の支援体制を構築し、自立相談支援事業、住居確保給付金の支給、就労準備支援事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、その他生活困窮者の自立の促進に関し、包括的な事業を実施します。

自立相談支援事業は、阪南市及びその他の関係機関と密接な連携を確保し、生活困窮者の抱える複合的な課題を一体として受け止め、相談者の置かれている状況や意思を十分に確認した上で、包括的な支援計画を策定し、それぞれの支援が開始した後もそれらの効果を評価・確認しながら、相談者の自立までを継続的に支えていきます。

また、対象者を早期に把握するため、重層的支援体制整備事業に基づく包括的相談支援や地域づくりを実施し、関係機関とのネットワークづくりや、連携を図ります。本事業実施にあたっては就労準備支援事業、家計改善支援事業と一体的に実施し、阪南市が定める実施要綱や生活困窮者自立支援法にかかる法令並びに通知に基づいた運営を行います。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 相談者の課題を把握し、支援計画を作成し、計画に基づいた支援を実施
- 生活支援課、家計改善支援員との支援調整会議を週1回程度実施
- 生活支援課、就労準備支援事業委託事業所との会議を月1回程度実施
- 共生の地域づくり市内連携推進会議に2ヶ月1回参加
- 社会貢献事業との会議に年2回参加
- 地域包括支援センターとの会議に年1回参加
- 関係機関との連携（地域包括支援センター、ハローワーク、保険年金・高齢・障がい等行政関連部署、地域のボランティア団体等）

【実績】

	新規相談件数	申込件数	プラン作成件数
件数	179 件	56 件	44 件

- ・食糧等の支援実施件数 114 件

(3) 成果・評価

- 行政・事業所・相談支援機関、多機関での連携を図り支援をおこないました。
 - ・経済的事事で治療や介護サービスを受けられない相談者を無料低額診療事業、無料低額介護老人保健施設利用事業、社会福祉法人利用者負担軽減措置等の利用につなげました。
 - ・失業状態の相談者にハローワーク巡回相談の利用、住居確保給付金、生活福祉資金貸付を案内することで、求職中の生活費を確保し、早期の再就職につなげました。
 - ・就労準備支援事業委託事業所との連携により長期間就労できていなかった相談者が適正検査等を受け、就労に結び付くことができました。
 - ・ひきこもり状態であった相談者がアウトリーチ等支援事業から生活困窮者自立支援制度につながり、就労準備支援事業の利用を開始しました。
 - ・多重債務を抱える相談者を無料法律相談につなげ、債務整理を行うことで生活が安定しました。
 - ・他の相談支援機関と円滑な連携を図るため、地域包括支援センターや社会貢献事業との会議に参加しました。
 - ・大阪府共同募金から助成を受け、アウトリーチ支援用のスマートフォンを整備しました。また、生活するうえで必要なトイレットペーパー等日用品を購入し、必要とする相談者に配布しました。
 - ・歳末たすけあい運動の助成金を活用し、相談者に年始を気持ちよく迎えてもらうため、可燃ごみ袋や年越しそば等を配布しました。

(4) 課題・今後の方針

- 青年・中年層や自営業者からの相談は減少し、高齢者からの相談割合が増加しています。
また、長年無職の状態にある人に関する相談が増えてきています。
- 様々な困窮状態にある方がより相談につながるよう関係機関への事業説明やパンフレット配布、ホームページを通じた事業周知を行います。
- スムーズな課題解決にむけ、関係機関との連携・情報共有を図ります。
- 相談内容によっては現状の制度等では解決が困難な場合があります。共通する相談内容を中心に、解決に向けた資源開発を促進します。
- 相談を終えないまま、長らく連絡がない相談者に対して、手紙とパンフレットを送付し、現在、生活上の困りごとがあれば、相談につながるよう案内します。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
13,367,238 円	市受託金	令和 2 年 4 月

福祉資金貸付事業

(1) 事業概要

「生活福祉資金貸付制度」は、低所得者や高齢者、障がい者の生活を経済的に支えるとともに、その在宅福祉及び社会参加の促進を図ることを目的とした貸付制度です。

この制度は、社会福祉法人大阪府社会福祉協議会が実施主体となり、阪南市では本会が本市在住の住民を対象に窓口となって申請や償還支援等を実施しています。

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等に対し、世帯単位でそれぞれの世帯の状況と必要に合わせた資金の貸付を案内します。

また、本貸付制度では、資金の貸付による経済的な支援にあわせて、資金の種類によっては地域の民生委員が資金を借り受けた世帯の相談支援を行います。

生活困窮者自立支援制度の施行に伴って、総合支援資金と緊急小口資金の貸付にあたっては、自立相談支援機関の利用を貸付の要件となり、連携が図られています。

(2) 実施内容・実績

- 貸付相談等の窓口対応
- 各種貸付制度のホームページ等での周知PR
- 民生委員、自立相談支援機関や専門機関と連携した支援体制の構築

【実績】

■ 生活福祉資金等の申請件数

資金内容	福祉資金	緊急小口資金	総合支援資金	教育支援資金	不動産担保型生活資金
申請件数	2 件	13 件	2 件	4 件	0 件

(3) 成果・評価

- 新型コロナ特例貸付が終了後、特例貸付の借受人から「その他貸付を受けられる制度はないか？」との相談も多く入りました。本貸付の対象となる方には生活の立直しを目的とした制度案内を行いました。
- 貸付の入金まで所持金や食糧がない世帯に対して自立相談支援機関と連携し、生活の維持ができるよう食糧・物品支援へつなぎました。

(4) 課題・今後の方針

- 相談者は経済的に困窮され相談されるが収入基準を満たしていない、貸付条件に当てはまらない等申請できないケースや貸付の入金までの生活維持が困難なケースがあり、今後も自立相談支援機関と一体となった支援が必要です。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
2,405,848 円	府社協受託金収入	昭和 56 年 4 月

新型コロナ特例貸付借受人フォローアップ支援事業

(1) 事業概要

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた生活福祉資金貸付制度における緊急小口資金等の特例貸付を借り受けた世帯で、生活に困窮しており、支援が必要と考えられる世帯に対しフォローアップ支援を行い、適切な支援に繋げることを目的に事業を実施します。

個別に電話連絡を入れ生活状況や償還・免除手続きの確認、場合によっては借受人に来所を求め手続きを進めます。

また、支援にあたり生活困窮者自立支援制度の自立相談支援機関との連携が必須であり、借受人がこれから安定した生活が送れるよう調整します。

(2) 実施内容・実績

- 借受人へ個別に連絡を入れ、免除要件を案内し、生活状況や手続き状況を確認しました。
- 償還免除にはならず返済が厳しい場合、償還猶予（1年間の返済延長）を案内しました。
- 償還猶予を行った後も返済が厳しい場合は、返済可能な額での少額返済の案内等を行い、希望される場合は手続きを支援しました。
- 免除の要件について内容の理解が難しい、手続き書類に何を揃えればいいのか判らない等自身での手続きが不安な借受人には来所を求め、一緒に大阪府社協や市役所等への問い合わせや手続きを支援しました。
- 相談内容に応じて、自立相談支援機関と連携しました。

【実績】

■ フォローアップ支援件数

電話対応	猶予申請対応	免除申請対応	返済手続き	その他窓口対応
1,633 件	95 件	41 件	30 件	66 件

(3) 成果・評価

- 状況確認のために電話連絡を入れ、返済が苦しい世帯へ償還猶予や少額返済の案内を行いました。
- 高齢者や外国籍の方をはじめ、各要件の理解や手続きが難しい場合は来所を求め、借受人とともに手続きや市役所へ課税状況の問い合わせを行う等寄り添い、借受人が円滑に手続きできるよう支援しました。
- 借受人からの相談を受ける際、本事業での対応をこえ相談が多岐に渡る場合は、内容に応じて自立相談支援機関担当者に同席を求め、ワンストップでの対応、連携に努めました。

(4) 課題・今後の方針

- 償還猶予にて1年間の返済延期をしていた借受人の返済が開始となってきたため、より自立相談支援機関との連携を深め、借受人が安定した生活を維持できるよう支援が必要です。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
18,087,000 円	府社協受託金収入	令和 5 年 4 月

地域介護予防事業（市受託事業）

（１）事業概要

阪南市より委託を受け事業実施します。

阪南市内在住の概ね 65 歳以上の高齢者を対象とした、生活機能の維持または向上を図るための事業です。実施にあたっては、各校区（地区）福祉委員会等の協力を得て、身近な地域での教室と、市内全域の高齢者が参加できる全市域向けの教室を取りみます。

（２）実施内容・実績

プログラム	委託先	実施回数 参加延べ人数	内容
こっこつゆうゆう体操 （運動教室）	特定非営利活動法人 和歌山YMCA	50 回・1172 人	レクリエーション・ストレッチ・筋力トレーニング
のびのび体操 （運動教室）	谷川 直美 （市内福祉事業所）	72 回・1,695 人	レクリエーション・ストレッチ・筋力トレーニング
出張栄養教室 （栄養教室）	はつらつ尾崎地域 活動栄養士会	4 回・108 人	食・栄養の知識や食事づくりについての栄養教室
にこにこ健口教室 （口腔機能向上教室）	社会福祉法人レーベン ダンクライフケア尾崎	17 回・332 人	アコーディオン演奏を通じた唱歌・口腔機能維持のためのレクリエーション
地域回想法教室 （認知症予防教室）	回想法ボランティアグループ「スイートピー」	6 回・119 人	つながりづくり、認知症予防のためのグループ回想法

（３）成果・評価

○こっこつゆうゆう体操

継続参加されている方が多い。足の筋力アップを目指すプログラムを重点に取り入れたことで、踏み込む力、一步踏み込みの測定値が大きく数字を伸ばしています。筋肉の動かし方を理解し自身の身体と向き合うきっかけづくりになっています。

○のびのび体操

今年度は「腰痛予防・転倒防止」に重点を置いたプログラムが行われました。具体的な内容については、地域の参加者に合わせて企画されています。また、のびのびノートの作成、配布をして、体操教室以外の時間でも自分でトレーニングができるような工夫がされています。

○出張栄養教室

栄養士による日常の食生活に視点を置いた講話が、参加者からは好評でした。筋力の向上のためにタンパク質に注目したテーマを設定し、栄養をより体内に取り入れやすい試食会が行われました。

○にこにこ健口教室

全市域向け教室では、継続して参加される方が多く、月 1 回の口腔ケア教室を日常的に捉えられており口腔機能向上につながっています。身近な地域への出張教室も好評で、楽しくお口の体操ができるということで担い手、参加者ともに喜ばれています。

○地域回想法教室

講座の後にも楽しむことができるよう、脳トレのためのブローチづくりが好評でした。回想法教室では楽しさの中に認知症予防の要素が多く含まれており、参加者同士の交流のきっかけにもなりました。

（４）課題・今後の方針

次年度からは、はんなん健康応援プランへ移行されますが、引き続き身近な地域での健康づくりを地域活動者とともに進めていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
3,270,020 円	市受託金	平成 21 年度

民生委員児童委員協議会事務局事業

(1) 事業概要

民生委員児童委員協議会の事務全般（委嘱・表彰を除く）、会議の運営、委員の活動支援等。

(2) 実施内容・実績

月	日	内容	内容
4月	12日	役員会	令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度事業計画・収支予算案について
4月	25日	総会	令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度事業計画・収支予算案について
9月	6日	役員会	総会、視察受け入れ、管外研修について
9月	20日	総会	講演「強めよう！災害時に備えたつながり 高めよう！平時の福祉力・防災力」講師：栗原英文氏（一般社団法人FEELDo 代表理事）
9月	30日	視察受け入れ	北名古屋市東地区民児協視察・交流
11月	15日	管外研修	淡路市社協 地域支え合いセンターいわや視察
3月	12日	役員会	令和6年度事業実施・執行状況、令和7年度事業計画・収支予算案について

【部会】

- ・広報部会定例会 原則毎月1回（5・11月を除く）
広報紙発行 4月、9月 各700部
- ・主任児童委員定例会 毎月1回
- ・地域福祉部会 保健センター離乳食講習会等の保育（原則月1回）
- ・児童福祉部会 学校訪問、研修
- ・児童福祉部会 阪南市地域子育て支援センター親子教室支援（18回）
- ・地域福祉部会・児童福祉部会合同研修 講演「見えにくい児童虐待～民生委員に出来ること～」
講師：辻由起子氏（子ども家庭庁参与）

【地区委員会】

- ・4地区全てで地区研修実施。

(3) 成果・評価

主体的な事務局運営をし、市との両輪で協議会運営を行いました。くらしの安心ダイヤルの担当地区と市のハザードマップを融合した地図の配布、災害時の対応についての研修や意見交換の場づくりを行いました。また、管外研修では淡路市社協を視察、民生委員の地域社会への関わりの大切さを改めて考える機会となりました。

(4) 課題・今後の方針

令和7年12月の一斉改選に向けて市担当課と連携し、事務局の役割を果たしていきます。委員が不安なく活動できるようサポートしていききたいと思います。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
2,919,000 円	市受託金	令和2年度

老人クラブ連合会事務局事業

(1) 事業概要

「生きがいづくりと健康づくり」を目標に各種活動を総合的におこなっている老人クラブ連合会の事務局を受託し、その活動を支援するとともに、老人クラブの活性化や新規会員増加のため、広報の充実に努めます。

(2) 実施内容・実績

老人クラブ連合会事務局の運営

- ・地域交流館 1 階に事務局を設置（毎週火～木曜日）
- ・総会、幹事会、定例会の調整

老人クラブの活動支援

- ・しにあ阪南発刊
- ・グランドゴルフ大会
- ・ワナゲ大会
- ・ねんりんウォークラリー
- ・健康講座
- ・演芸大会

(3) 成果・評価

連合会役員との調整のうえ、事業を進めました。

老人クラブ関係者との関係性構築を進めることができました。

(4) 課題・今後の方針

令和 6 年度末をもって受託を終了します。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
2,000,000 円	市受託金	令和 2 年度

生活支援・介護予防事業サービス協議体運営事業（市受託事業）

（１）事業概要

介護保険制度の改正に伴い設置された協議体の運営と第一層及び第二層生活支援コーディネーターを受託します。実施にあたっては、住民の主体性を尊重し、ニーズや資源の実態を把握して、協議のもと、地域に必要なサービスや住民相互の支え合い活動を創出するよう取り組みます。

（２）実施内容・実績

- ◆多様な団体同士が話し合う場（協議体）の運営
 - ・協議体 6 回、協議体事前会議 6 回
- ◆協議体内にテーマを絞って話し合う部会を設置、運営
 - ・研修企画チーム会議 3 回
- ◆生活支援に関する相談・対応件数

第 1 層生活支援コーディネーター		第 2 層生活支援コーディネーター(東圏域)		第 2 層生活支援コーディネーター(西圏域)	
相談：303 件	対応：365 件	相談：187 件	対応：382 件	相談：145 件	対応：556 件

- ◆担い手の養成、学習の場づくり
 - ・学生を対象とした担い手づくりをボランティアセンターと協働で開催しました。参加者 28 名。
 - ・阪南市地域づくり担い手研修を 2 日間開催しました。参加者 11 名。延べ 164 名受講。
 - ・泉南学寮（少年院）の少年たちへボランティアの授業（2 回）をおこないました。
- ◆新たなツナガリによる地域共生社会の実現
 - ①泉南学寮グリーンサポーター
 - ・地域活動 16 回
 - ②子ども福祉委員 ※（ ）内は卒業生のうち活動に参加した人数
 - ・4 校区/42 名＋（卒業生 8 名）
 - 舞小：17 名、貝掛中：0 名、鳥取東中：10 名、飯の峯中：15 名＋（卒業生 8 名）
 - ・地域の高齢者訪問や地域活動の実施 20 回
 - （クリスマス訪問、子ども食堂のお手伝い、カフェ活動等）
 - ③農福連携による地域活性化
 - ・自然田や西鳥取の田んぼでの農作業、野菜・果樹・お米の植え付け、地域交流イベントの実施（田植え、稲刈り、もちつき交流会、おはぎ会、さつま芋掘り交流会の実施：合計 505 名参加）。収穫した作物の寄付つき商品販売（寄附額 122,074 円）
 - ④漁福連携
 - ・みんなの食堂 支援 12 回実施：延べ 1,080 人参加
 - ・釣りプロジェクト 2 回実施：延べ 37 人参加
 - ・牡蠣殻から作った牡蠣肥料の寄付つき商品販売（寄附額 10,000 円）
 - ⑤子どもの居場所プロジェクト
 - ・子ども食堂ネットワーク会議 3 回・こども食堂おいでよ MAP 作成
 - ・地域ぐるみで子どもを支える支援（学習支援、子ども食堂支援等）

（３）成果・評価

- ・多様な主体との協働により、地域ニーズに応じた支援や居場所づくりを推進しました。住民活動の相談件数も増えており、伴走型で対応をしてきた結果、多機関、多分野協働による住民主体の活動が広がっています。

（４）課題・今後の方針

- ・多様な主体の連携や住民主体の活動が広がる一方で、活動者の高齢化が進み継続的な支援体制の構築が課題となっています。福祉分野以外との協働によるネットワーク化も含めた持続可能な支援体制の整備を図っていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
22,297,668 円	市受託金	平成 28 年度

地域交流館管理運営事業

(1) 事業概要

阪南市より第3期指定管理（令和4年度～令和7年度）を受け事業実施しました。

阪南市地域交流館において、地域福祉活動、社会教育活動（尾崎公民館）、市民公益活動（市民活動センター）のそれぞれの活動を支援するとともに相互に連携を図るため拠点機能・調整役機能を最大限に発揮して業務を行います。

(2) 実施内容・実績

三団体定例連絡会議の開催…月1回会議を実施、円滑に情報共有等することが出来ました。

情報の発信…館内掲示や三団体の情報を一元化した「交流館だより」を年4回発行しました。

協働事業の実施…①ボランティア・市民活動フェスティバルを協働開催しました。

② 「夜店」イベントを開催し、親子など幅広い年齢層に施設を周知できました。

■来場者：約400名 ■参加団体：11団体

③ まちづくりをすすめる団体と協力し5回の事業を実施。まちの活性化につながりました。

（おかあさんチョット「結 marche」、子どもNPOはらっぱ「舞台鑑賞」など）

本会事業を通じた地域交流館のPR…共生型サロンやボッチャ、カフェ事業で施設をPRしました。

貸館実績（のべ数）…共用会議室①～④758件：13,974人

体育施設421件：12,291人

合計1,179件：26,265人

(3) 成果・評価

体育施設では、卓球などの定期的な利用に加え、親子グループや障がい者支援の福祉事業者の利用がありました。また共用会議室では、同窓会の打合せ、企業の会議、個人名での利用など、幅広いニーズに応えられる施設の利便性がホームページ等によって認知されてきています。

ボランティア・市民活動フェスティバルの協働開催や、三団体合同で「夜店」を開催。広く市民が交流する自主事業で地域活性化に取り組みました。

(4) 課題・今後の方針

尾崎公民館、市民活動センターと合同で話し合いを続けている、施設共通の「避難誘導マニュアル」の完成を目指します。また、「夜店」イベントを前年度に続き開催するなど、三団体の連携を深めて施設全体を盛り上げていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
12,820,328 円	経常経費補助金収入 受託金収入 事業収入	平成26年4月 （第1期受託） 平成29年4月 （第2期受託） 令和4年4月 （第3期受託）

善意銀行事業

(1) 事業概要

善意銀行事業は、市民のみなさんからお預かりした善意のこもった寄付金や物品を、必要としている人や活動につなげることで地域福祉の増進を図る事業です。

お受けした寄付については、年4回発行の広報紙「ふくしはんなん」で報告しています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 窓口での寄付金品の受け取り・指定先への払い出し
- 広報紙「ふくしはんなん」での実績の掲載
- 本会ホームページからのインターネット寄付の促進
- パンフレット配布
- 遺贈による寄付拡充の推進

【実績】 延べ件数 173 件

- 寄付金

件 数：131 件（前年度：129 件） / 実 績：2,494,344 円（前年度：2,030,532 円）

（内 訳）

指定寄付先	件 数	実 績
校区（地区）福祉委員会	95 件	1,165,000 円
その他の団体	2 件	20,000 円
本会	30 件	1,309,344 円

- 物品等

件 数：42 件（前年度：24 件） / 実 績：707,641 円相当

- ・介護用品（紙パンツ、消臭液、防水シートなど）
- ・食品（米、餅、野菜、カップ麺、など）
- ・衣類（Tシャツ、パジャマなど）
- ・その他（卓球台、電気圧力鍋、歯ブラシ、切手、花苗）

（内 訳）

指定寄付先	件 数
校区（地区）福祉委員会	0 件
その他の団体	4 件
本会	38 件

(3) 成果・評価

- 広報紙「ふくしはんなん」での掲載により、物品の寄付につながりました。
- インターネットからの寄付は、20 件 91,478 円でした。
- パンフレットやホームページで遺贈による寄付拡充の推進を図りました。
- こども食堂へのお米の寄付について、感謝の気持ちをブログに載せました。

(4) 課題・今後の方針

- パンフレットやホームページを活用し、粗供養による寄付だけでなく遺贈・相続財産等による寄付受付を推進します。
- ブログ等で活用先の見える化を進めます。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
3,326,985 円	寄附金収入・事業収入	昭和 56 年 4 月

赤い羽根共同募金運動（一般募金）（共同募金協力事業）

（１）事業概要

社会福祉法では、地域福祉推進に係わる規定が設けられ、その中に位置づけられた共同募金は誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に向け、民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。

本会は阪南地区募金会として、阪南市内での本運動の推進に取り組んでいます。

（２）実施内容・実績

【実施事業の内容】

10月1日から12月31日までの3か月間、校区（地区）福祉委員会や自治会、学校・幼稚園等各種団体および企業のご協力を得て取り組みました。

本会（阪南地区募金会）が取り組んだ募金の種別は、主に以下のとおりです。

○戸別募金

自治会等の協力を得て、地域の各家庭へ募金を呼びかけました。

○街頭募金

社協役員、一般募金配分団体、12校区・地区福祉委員会、ボランティアセンター運営委員会の協力のもと商業施設にて募金を呼びかけました。

○法人募金

福祉委員会の協力を得て、企業等に寄付を依頼しました。

○職域募金

社協内部と阪南市役所にて募金を依頼しました。

○学校募金

学校・幼稚園において生徒・児童に募金を呼びかけました。

○バッジ募金

公募されたデザインのバッジを1個500円で頒布しました。

○その他募金

新たにカプセルトイ募金の導入し、ふれ愛福祉農園で採れた野菜等を景品にしました。

【諸会議及び研修】

○9月の三役会にて協力依頼、校区(地区)長・事務長会議にて今年度の実施方法をお伝えしました。

(内訳)

【実績】

令和6年度募金実績合計額 2,632,782 円

(参考)

令和5年度募金実績合計額 2,771,293 円

種 別	金 額
戸別募金	1,510,814 円
法人募金	357,735 円
学校募金	94,293 円
職域募金	34,993 円
街頭募金	145,652 円
バッジ募金	246,500 円
その他	242,795 円

（３）成果・評価

○多世代の方が気軽に募金運動に参加できる仕組みとして、

カプセルトイ募金を導入しました。募金会オリジナル商品や地元作業所のクッキーを景品としてより多くの方に関心を持っていただくことができました。今年度は、募金の使途や阪南市でどのように活用されているか運動の見える化に力を入れ、チラシ作成をしました。全体額は昨年度より減額しましたが、「阪南市での募金の使い道がわかりやすい」という声もあり、共同募金運動の周知啓発に関して手ごたえがありました。

（４）課題・今後の方針

○引き続き、これまで行われてきた募金運動事業を運営していくとともに、その他募金での寄付付き商品の販売や他の事業との連携に力を入れていきます。

歳末たすけあい運動（共同募金協力事業）

（１）事業概要

社会福祉法では、地域福祉推進に係わる規定が設けられ、その中に位置づけられた共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解に向け、民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。

本会は阪南地区募金会として、阪南市内での本運動の推進に取り組んでいます。

（２）実施内容・実績

【実施事業の内容】

12月の歳末期に、配分申請団体、社協役員の協力を得て、街頭募金に取り組みました。

○街頭募金

配分団体より1～2名、会長・副会長の協力のもと商業施設にて募金を呼びかけました。

○その他

チラシ等で募金運動を呼びかけ、社協事務所窓口に募金箱設置をしました。

【諸会議及び研修】

○11月の三役会にて協力依頼、1月の三役会、校区(地区)長・事務長会議にて今年度の実施方法をお伝えしました。

【実績】

○令和6年度募金実績

区 分	金 額	(参考) 昨年度金額
前年度繰越額	64,685 円	69,277 円
当該年度実績額	113,721 円	115,408 円
計	178,406 円	184,685 円

【配分】

○10団体10活動 配分額計100,000円（参考：令和5年度は12団体）

【翌年度繰越額】

○78,406円（＝募金実績額計－配分額計）

（３）成果・評価

○平成26年度より取り組みはじめ、福祉ニーズをもつ方（世帯）への支援や生活困窮者等に対する支援の仕組みづくり、また年末や新年を機会とする地域の幅広い人々が参加する居場所づくりのさまざまな活動に活用されております。この募金運動を必要とする団体へ広く呼び掛けるため、今年度も子どもの居場所づくりネットワーク加盟団体へ呼びかけをしました。

（４）課題・今後の方針

○引き続き、実施方針に沿った事業や活動を実施されている活動団体へ、

この募金運動がつながるようにSNS等も活用しながら運動周知に努めていきます。

○街頭募金以外の方法でも募金に協力していただける工夫が必要だと考えています。

期間中の募金箱設置を広く呼びかけたり、他の事業とも連携をしながら方法を検討していきます。

阪南市地域交流センター「ふれ愛ホーム」事業

(1) 事業概要

「ふれ愛ホーム」は本会定款で基本財産として定められており、本会が社会福祉事業を実施するための大切な拠点となっています。

地域福祉活動やボランティア活動団体の活動拠点として、貸部屋を通した支援を行っています。

阪南市を中心とした子育て支援を行なう特定非営利活動法人「子ども NPO はらっぱ」に施設の一部を貸出すことで地域福祉推進に寄与しています。

(2) 実施内容・実績

業務	実績（内容）
保守管理、修繕関連、光熱費の支払など施設管理	浄化槽の清掃、消防設備の点検、植木の剪定、光熱費の支払等、施設管理を適切に行いました。
子育て支援団体活動拠点の提供	施設の一部を貸し出し、特定非営利活動法人「子ども NPO はらっぱ」が取り組む子育て支援活動等への支援を図りました。

(3) 成果・評価

- ・本会の基本財産を子育て支援の拠点として活用しました。

※ 地域の親子、子どもの居場所事業、18歳までの子どもからの相談受付事業などを定期的に開催。

(4) 課題・今後の方針

- ・阪南市内で取り組まれているボランティア活動団体の拠点として本施設を活用することができないか、あらためて検討を図ります。
- ・施設の設備に老朽化している部分があり、今後修繕の費用が必要になってくると見込まれます。
- ・本会ホームページなどを通して貸部屋の利用促進をはかります。
- ・ふれ愛ホームのさらなる活用を目指し、子ども NPO はらっぱとの協働事業を検討してまいります。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
420,240 円	事業収入	平成 15 年 7 月

阪南市介護者(家族)の会支援事業（当事者組織支援事業）

（１）事業概要

介護に関して、同じ状況にある人同士が集まり、悩みの共有や課題解決に向けた学習等、情報発信をする当事者組織の組織化や運営支援を行う。

（２）実施内容・実績

- ・つどい（4,6,7,9,11,12,1,2,3月に開催）
- ・介護者だより発行（年3回：1,332部配布）
- ・介護勉強会（インテックス大阪へ）
- ・バスツアー（岸和田市牛滝温泉四季祭り）
- ・泉州ブロック活動交流会
- ・施設見学
- ・ボランティアフェスティバル等での活動紹介の展示
- ・キャラバンメイト活動（認知症サポーター養成講座）
- ・マスターズ Cafe サポート、介護相談
- ・総会（5月に開催）
- ・役員会
- ・街頭募金（10,12月）

（３）成果・評価

- ・上記事業を通して、介護者の心のよりどころとなり精神面で支えることができました。
- ・泉州ブロック活動交流会への参加等他市町村との交流を持ち、会の運営の参考になりました。
- ・つどいでは、地域包括支援センターや福祉関係者が参加し、専門的な視点での助言をもらい、つながりも構築できました。
- ・マスターズ Cafe の運営支援とともに Cafe の場にて介護相談を出張開催しました。

（４）課題・今後の方針

- ・「介護の悩みを持つ当事者同士が情報を共有し、励まし、助け合い解決していくこと」を意識して取り組む。
- ・送迎がないとつどいなどに出席できない高齢の会員が増えているため、活動へ参加できる方法を検討していく必要がある。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
50,000 円	（赤い羽根共同募金）一般募金配分金	昭和 62 年度

総合相談支援業務（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

地域の身近な総合相談窓口として、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員、認知症地域支援推進員等の専門性を活かし、高齢者を中心とした住民の相談支援および訪問相談業務を行ないます。相談業務の中から、地域課題を抽出して他機関と連携し、複合的な課題を抱えた世帯に対しても、伴走型支援を意識した関わりをしています。

圏域内には住民によるまちなかサロン・カフェや小地域ネットワーク活動、医療や介護の専門職や民間企業が事業を実施されています。できるだけ身近な場所で高齢者の困りごとを把握できるよう、これらの機関等と連携し、誰かが気づける、また誰かに相談できる体制を作り、地域包括ケアシステムの深化を進めます。

（２）実施内容・実績

○相談件数…5, 071件（実人数733人）

（３）成果・評価

- 総合相談件数、実人数ともに昨年度よりも増加しています。
- 医療と介護の支援が両方必要、もしくは支える家族が60歳を超えてくるタイミングとなる80歳～84歳、次いで85歳～89歳の方の相談を数多く受け止めています。
- 本人や家族以外からの相談経路はケアマネジャー、医療機関、関係機関、民生委員・福祉委員からが多数を占めています。周囲の方々が困りごとに気づき対応に困ったときには、一緒に解決へ向けて支援することで地域力の強化にもつなげています。
- 介護サービス利用についての問い合わせ、医療、認知症、家族関係に関する内容の相談が上位を占めています。家族関係に関することについては、2年前と比べて1.6倍に相談が増えています。

（４）課題・今後の方針

- 同居世帯であっても、お互いが無関心または共依存状態にある、精神疾患や認知症の症状の増悪で虐待対応につながる、親の介護が必要になった時点でひきこもりの子どもがいることがわかるなど、世帯全体に支援が必要になることが多々あります。さらに、家族関係の希薄化・複雑化が深刻で、対応に困難が伴うケースが増えています。
- 壮年期の健康課題を抱えている、セルフネグレクト傾向にある、住民票が他県にあるなど、制度の狭間で関係機関と連携することに時間がかかることも多くありました。
- 多機関や地域で支えられる体制を作り、早期発見、早期介入ができるよう支援する体制の強化が求められています。

権利擁護事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

高齢者の人権を護るため、相談や通報に対し市役所や関係機関と連携し対応します。また、高齢者虐待、消費者被害の早期発見や予防を図るため、対処法や制度についての啓発活動を行ないます。

（２）実施内容・実績

【相談実績】（延べ件数）

相談内容内訳	相談件数
権利擁護	44
成年後見等	128
虐待関係	77
消費者被害等	3
財産・経済問題	119
その他	7
合計	378

【会議・研修】

プログラム	回数	実績
研修	1回	阪南市在宅支援専門職向け高齢者虐待対応研修
会議	12回	東西地域包括支援センター社会福祉士会議
	3回	阪南市高齢者虐待担当者会議
意見交換会	6回	・司法書士 ・日常生活自立支援事業担当者、まつのき園 ・金融機関 ・消費者被害に関する機関
その他	対面3回 電話メール5回	弁護士による法律相談

（３）成果・評価

- 成年後見制度は昨年に比べて1.6倍の相談がありました。市長申し立てが1件、本人申し立てが2件、親族申し立てが1件ありました。また、成年後見制度などの権利擁護事業に携わる担当者と意見交換を行い、多様化する相談に総合的に対応できる中核機関の設置が必要であるという認識に至りました。
- 虐待関係では昨年と比べて2.8倍の相談がありました。令和6年度から各事業所に虐待防止委員会の設置が義務づけられ、地域包括支援センター内においても研修を行いました。ケアマネジャーからの通報が増えており、各事業所や専門職の虐待防止への意識が高まっています。
- 行政と東西包括で高齢者虐待担当者会議を行い、より迅速に対応できるように虐待帳票の簡潔化を図りました。

（４）課題・今後の方針

- 障がい分野の機関のほか、司法書士、警察や金融機関など他分野の方とも意見交換を図ることができました。行政や地域包括支援センターだけではなく、様々な関係機関と連携し、さらに地域住民とも協力し合いながら高齢者を支えていく体制を整えていきます。
- 虐待対応では相談は増えたものの、本人や養護者との信頼関係が崩れてしまうことを懸念して通告を躊躇する専門職もいます。虐待対応の周知啓発を行い、支援者がより知識を深め虐待の早期発見や防止に努められるよう、研修などの学ぶ機会を設ける必要があります。
- 独居や認知症などで判断能力に課題のある高齢者の支援として、本人にとって最善の利益を導き出せるように努めます。また、本人に必要な情報の提供や本人の意思や考えを引き出す、意思決定支援の必要性について啓発や理解の促進に努めます。
- 消費者被害等は昨年度と相談件数はほとんど変わらず、3件でした。被害に気付かないことや、被害にあったことを誰にも相談できていないなど潜在的な相談もあるのではないかと考えます。引き続き行政や警察とも連携しながら、気軽に相談できる窓口として消費者被害等の防止に努めます。

包括的・継続的ケアマネジメント事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

地域のケアマネジャーが包括的、継続的なケアマネジメントを実施できるよう、地域のネットワークを構築するとともにケアマネジャーへの支援を行ないます。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
ケアマネジャーへの支援・助言・相談	延べ２９６１件	●利用者支援相談４８８件 ●実務相談８３１件 ●給付算定関係６８２件 ●個別地域ケア会議３件 ●個別事例検討会４件 ●その他９５３件
ケアマネジャー部会	６回	延べ１２１名出席
ケアマネジャー役員会	６回	延べ５８名出席（役員９名）
Mina de jirei α	１２回（西包括から２事例提供）	自立支援型地域ケア会議。利用者の目標達成を目指し、多職種から助言。
資質向上研修	３回（うち１回は法定外研修、もう１回は医療職、介護職を対象とした研修）	資質向上を目的とした研修企画、開催。 延べ９７名出席
東西地域包括支援センター主任ケアマネ会議	１２回	制度改正のための取り決め 課題抽出、研修企画、部会後方支援

（３）成果・評価

- 介護報酬改正に伴う算定方法の見解について保険者と協議を重ね、その結果について一定の整理ができたことで、早期にケアマネジャー間での共通理解に繋がりました。
- パーキンソン病患者・家族会の定例会において、ケアマネジャー部会の役員が、介護保険制度の勉強会の講師を務める等、通常のケアマネジメント業務以外にも活動の幅を広げることに繋がりました。
- 「虐待」「成年後見制度」をテーマに資質向上研修を開催しました。制度理解が深まるよう、今後も継続して開催していきます。

（４）課題・今後の方針

- ケアマネジャーの高齢化、退職、新たななり手がいないことから慢性的な人材不足の状態がここ数年続いており、今後もこの流れは止まらないと推測されます。また、住民の高齢化に伴い介護サービス利用者数が開設当初（２０１６年）よりも約９００件増加し、要支援者のケアプランの委託先が見つからず、介護難民化、もしくは地域包括支援センターの負担が増大しています。今後、要支援者に対するサービスの取り扱いや、いつまでも健康でいるために自立支援についての市民啓発が必要と考えます。
- 介護サービス事業所が利用者宅を訪問する際の駐車スペースがなく、路上駐車、コインパーキングへの駐車、事業所で駐車スペースの借り上げ等の対応をしていますが、警察への通報や事業所が料金を負担するなど事業を運営する面で支障が出ています。
- 家族や地域との連携、地域資源の活用を苦手とするケアマネジャーが多く、利用者を総合的に把握した支援に繋がりにくい傾向があります。研修や勉強会を開催し、ケアマネジャーの資質向上に努めていきます。

地域ケア会議推進事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

圏域内での医療、介護、福祉等の専門職や機関、民間企業等と校区（地区）福祉委員会や民生委員、ボランティア等の住民活動者が連携協働し、高齢者の地域での生活を支えるため、個別、地区、市域等で地域ケア会議を開催します。＊阪南市では地域ケア会議を「支えあい会議」という名称で進めています。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
個別支えあい会議	5 回	認知症と近隣トラブル、本人の意思決定支援、認知症による行動への理解や地域住民による見守り体制、セルフネグレクト傾向の方の支援者間の連携強化、ICT の活用など
エリア会議（圏域内 5 校区）	11 回	各校区の状況や課題の共有、まちの保健室が地域へ出向くための検討
三職種会議（主任ケアマネジャー、医療職、社会福祉士）	38 回	東西地域包括支援センターの職種ごとにあつまり、課題の共有、資源開発等 介護保険課職員の参画を促し、実務や地域課題の共有から解決へ向けた取り組みの展開を検討
地域支えあい会議（圏域 5 校区内の福祉委員会や民生委員児童委員が集まる会議体に参画等）	56 回	認知症、フレイル、災害時対応、孤立死、人生会議など、様々な地域課題を住民と共有

（３）成果・評価

- 個別相談において多機関協働での支援体制を築く際、認知症がテーマとなることが多くなっています。
認知症は地域住民も含めて医療や、介護の専門職、その他コンビニやスーパーなど、生活に直結するような民間企業とも協働して支えあう体制が必要で、少しずつその輪は広がりつつあることを感じています。
- 福祉委員会の会合を、中心に地域へ出向いた際に個別相談等で把握した課題を共有できました。
- 東西包括の職種間連携の強化も進んでおり、また取り組みの中で感じた課題に対して、多機関を巻き込みながらの展開が進んでいます。

（４）課題・今後の方針

- 制度内、行政施策、地域住民と一緒に検討など、それぞれの強みを活かしながらできることを考え、地域課題の解決を継続します。

介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

本会に配置された第１層、第２層生活支援コーディネーターと連携し、総合事業や生活支援サービスのあり方、住民主体による支援について検討するため、「阪南市生活支援・介護予防サービス協議会」の運営に参画・協力します。

（２）実施内容・実績

プログラム	回数	実績
第１層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への参画	６回	地域における支えあい活動の共有 地域の実情、地域課題について発信
第２層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への協力	１２回	舞シニアサポート、箱の浦まちづくり協議会など総合事業を実施する地域団体への参画を通じ、個別事例への協働支援を意識して取り組みを行ないました。

（３）成果・評価

- 阪南市地域づくり担い手研修において目的が達成できるように、研修の対象や周知方法・内容などの話し合いをしました。
- 住民主体型サービスを担う地域団体の会合に参画し、制度の考え方や方向性などを確認しあいました。
- 総合事業のある地域では、住民の困りごとの解決に対し選択できる社会資源として定着しており、困りごとの解決方法を住民主体で考え、活動が広がってきています。

（４）課題・今後の方針

- 総合事業がある地域とない地域での地域差が広がってきています。
- 地域の居場所へ参加する際の移動困難者に対する改善の声が、引き続きの課題となっています。
- 地域で役割があることが介護予防につながっていることを意識し、支えあい活動を通して、支える側支えられる側の双方が健康的に暮らしていけるように地域づくりを進めていきます。

在宅医療・介護連携の推進事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

医療職及び介護職の「顔の見える関係」を築くため「医療と介護の多職種連携会議」へ参画し、医療と介護の円滑な支援体制を構築します。

（２）実施内容・実績

【阪南市医療と介護の多職種連携会議（はなていネット）、泉佐野泉南医師会との協働事業】

プログラム	実施回数	実績
はなていネット 運営会議	2回	各部会活動の共有、フレイル対策や ACP における地域課題へ向けた取組の検討
はなていネット 連携会議	1回	医療と介護の連携のための研修 「人生会議について」について
医師会・介護保険課 戦略会議	1 2回	泉佐野泉南医師会、市、東西包括による医介連携推進会議
施設部会	4回	事例検討、人材不足の取り組み、施設看取りについて等
病院部会	2回	各病院間連携、退院時の福祉用具選定について等
訪問看護部会	4回	法改正について、在宅支援看取り、人生会議について
通所部会	2回	市内デイサービス、デイケアの事業所一覧の更新、自立支援の考え方について等
訪問介護部会	役員会 5回 3回	人材不足について、ヘルパー業務についての課題 利用者向けチラシの作成等
3市3町多職種連携会議	1回	3市3町で取り組むべき課題の共有、フレイルについて
市内診療所、クリニック訪問	9回	泉佐野泉南医師会、阪南市介護保険課協働事業、主に歯科医院、施設へ訪問し事業所の概要や連携の課題などを情報収集する

（３）成果・評価

- 各部会の事務局的に関わる中で、実務部分の検討及び市域全体の課題について共有できるよう取り組みました。
その取り組みの中で出てきた課題について他の部会と交流する機会を設け、より連携がスムーズになりました。
- ACP やフレイルなど、地域の居場所へ専門職が出向いていけるように調整しました。地域課題としてあがっている事項を各種専門職間でも検討できるよう働きかけました。
- 医師会・市・両包括と定期的に戦略会議を行い、各部会の運営内容及び課題の共有や運営会議に向けての準備を重ねて行いました。
- 3市3町で取り組んでいる、消防署・保健所・医師会が主になって進めている「医療・ケアに関する情報共有シート」（最期の迎える時の意向確認）の高齢者施設での活用について、施設訪問の際に実情を確認し施設側のヒアリングを行いました。
- 福祉用具事業所や管理栄養士についても、話し合いを重ねており、必要性に応じて部会となるように介入していきます。

（４）課題・今後の方針

- 各部会が抱えている課題について、他の部会と話し合う機会を設けるなどを通して、はなていネットとしてより連携を深め、地域包括ケアシステムを進めます。
- 高齢者施設を順次訪問するにあたり、「医療・ケアに関する情報共有シート」の運用について確認し課題を抽出すると共に、ACP の取り組みの実情などを把握していきます。

介護予防事業普及啓発活動への協力（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

高齢者ができるだけ自立し住み慣れた地域で生活できるように、介護予防について普及啓発していきます。コロナ禍をきっかけとした自粛生活の影響により、フレイル状態に陥る方となるべく増やさないよう、コロナフレイルの周知を徹底しコロナフレイル０運動等の介護予防の啓発を継続します。

高齢者が歩いて通える身近なところに介護予防教室を開催できるよう、いきいき百歳体操の普及啓発に努めます。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
いきいき百歳体操	11回	体力測定及び基本チェックリスト・アンケートの実施 認知症・転倒予防についての啓発
出前講座	4回	各制度などの周知・啓発のための講話
医療職会議	12回	医療との連携、介護予防の内容の共有と、今後の取り組みについての企画など
コロナフレイルゼロ運動	12回	コロナフレイルを広く周知し、フレイル予防に努める 介護予防、ACPなどの普及啓発
あざみ会 (パーキンソン病患者・家族会)	20回	パーキンソン病患者・家族の交流会 11回 役員会9回 事務局としての後方支援

（３）成果・評価

- いきいき百歳体操は、年1回を目安に定期的に体力測定を継続すると共に、基本チェックリスト及びアンケート結果より導いた健康課題について健康教育を行いました。全市における体力測定を継続し、日頃の健康づくりに関して無関心な方々や若年層にもPRできる機会になりました。
- コロナフレイルゼロ運動を含む出前講座は、フレイルなどの各テーマに基づいた講座を、主として地域包括支援センターが行ないました。昨年度に続きオーラルフレイルにも着目し、公民館祭りなどで啓発活動をおこないました。
- 人生会議に関しての市民公開講座を2回実施し、多くの反響があり市民の関心の深さを感じました。
- あざみ会では、予定通り定期開催ができました。総合相談や個別支援の中で会を案内し、引き続き新規会員の確保に努めました。会員からのアンケートや感想及び交流会などから、会員自身が望む内容を企画・実施できるよう後方支援をしました。

（４）課題・今後の方針

- 身近な場所で介護予防に取り組める環境づくりとして、はんなん健康応援プランに基づき、いきいき百歳体操の普及啓発を中心に、住民主体の持続可能な取り組みを各機関と連携を図り進めていきます。地域のつながりの大切さの普及啓発に努めると共に、誰もが自然に健康増進のための情報を入手でき、「自然に健康になれるまちづくり」を目指せるよう、今後の取り組みについて検討を重ねます。
- フレイルゼロ運動を含めた出前講座については、今後地域包括ケアシステムの深化を図るため、はなていネットの各部会と連携し、身近な専門職が地域へ出向ける仕組みづくりを推進していきます。
- あざみ会では、当事者と家族が自身の病気や介護の悩みを表現でき、不安の解消につながるような場づくりを提案していきます。会員自身が会への参加を楽しめる企画を、役員等と相談しながら進めていきます。また新規会員の入会につなげるため、幅広いPR活動に力を入れます。徐々に会員が増える一方、疾患の進行や症状で会場へ来られない会員もいます。会場に来られなくても情報交換ができる方法の検討が必要です。

任意事業：介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業に協力し、高齢者やその家族の経済的、精神的な負担軽減や介護サービス事業所のサービス力の質の向上をめざします。

（２）実施内容・実績

【介護用品支給事業】：要介護３～５の高齢者に対し、申請代行等を行ないます。

○計５件

【住宅改修支援事業】：住宅改修に関する助言や住宅改修理由書の作成に協力します。

○計１０件

（３）成果・評価

【介護用品支給事業】

○件数は２件から、５件に増えています。

【住宅改修支援事業】

○引き続き申請支援をおこなっていきます。

（４）課題・今後の方針

【介護用品支給事業】

○市と協力し、ケアマネジャー及び地域住民への周知を行ないます。

【住宅改修支援事業】

○住宅改修を行なう理由を聞き取り、訪問の中で直接確認し、必要性に応じた支援を行ないます。

認知症施策の推進（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

認知症地域支援推進を配置し、認知症当事者や家族などが尊厳を保ちながら、その人らしく穏やかに生活を送ることができるよう、認知症施策や事業の企画、調整などコーディネートし、認知症の人が地域で暮らし続けるために、地域の支援者や支援機関とのつながりづくりを行っていきます。

（２）実施内容・実績

	プログラム	回数	実績
普及啓発・本人発信支援	認知症サポーター養成講座	7回	認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成する講座
	認知症サポーターステップアップ研修	1回	「認知症サポーター」が、認知症関連事業にボランティアとして活動できるよう、より深く理解を促す研修
	地域別キャラバン・メイト連絡会	12回	各圏域に分かれてキャラバンメイト活動について話し合い
	キャラバン・メイトリーダー会議	2回	各圏域のキャラバンメイトのリーダーが今後の方向性について検討
	キャラバン・メイト総会	1回	阪南市全域のキャラバン・メイトを対象に各圏域の活動報告と課題の共有
	キャラバン・メイトスキルアップ研修	1回	キャラバン・メイトの資質向上のために開催
	認知症広報誌の作成（ケアパス）	1回	令和7年度以降に使用する修正版ケアパスの作成
	キッズ認サポ（小学生対象認知症サポーター養成講座）、高齢者疑似体験	2回	桃の木台小学校（6年生 63人）：キッズ認サポ＋高齢者疑似体験 舞小学校（4年生 25人）：高齢者疑似体験
	普及啓発イベントの企画	2回	9月アルツハイマー月間、ボランティアフェスティバルでの認知症啓発物の展示
当事者、活動者支援	卓球クラブ中田会の活動支援	12回	認知症・障がいの有無、年齢に関係なく誰でも参加できる活動の後方支援
	おにぎり会の米作り活動支援	4回	ひとりの高齢者の生きがいである“田植え”を地域で支えたことがきっかけとなり、高齢者、こども、地域の福祉施設、事業所の多機関が協働し、田植え、稲刈り、おにぎりカフェ、餅つき大会の開催
	ほうかつ GARDEN	通年実施	認知症当事者やその家族、地域住民による花壇づくり
	認知症当事者による本人ミーティングに向けての活動の後方支援	12回	認知症当事者が自身の悩みや不安を話せる機会を持てるよう、居場所づくりや開催場所の後方支援
	認知症カフェの活動支援（マスターズCafe、なごみカフェ）	51回	認知症当事者やボランティアが協働して行うカフェの後方支援
	釣りプロジェクトの実施	2回	西鳥取漁港で認知症高齢者や住民、学生と釣りを通した交流支援
	認知症講演会	1回	認知症の正しい理解・啓発を目的として開催。 テーマ「口腔機能と認知症」講師：言語聴覚士・歯科衛生士
支援チーム	認知症初期集中支援チーム員会議	6回	認知症の初期対応を集中的にサポートするチーム チーム内での情報共有、今後の支援対策の検討を包括内にて開催
	認知症初期集中チーム員支援会議	2回	認知症サポート医とともに事例検討及び地域課題について協議
	認知症初期集中支援チーム検討会	1回	認知症に関わる機関で認知症に関する地域課題を抽出・検討
構築	認知症ネットワーク部会	6回	東西包括認知症地域支援推進員との連携会議
	3市3町認知症対応ネットワーク会議	6回	泉佐野泉南医師会及び3市3町の推進員との交流・情報共有
	大阪府内認知症連携関係者連絡会	2回	大阪府認知症地域支援推進員フォローアップ研修への参加・情報共有
	認知症地域支援推進員連携会議	12回	介護保険課・東西包括認知症地域支援推進員にて活動報告、情報共有

認知症地域支援推進員活動状況（個別支援）

相談内容内訳	相談件数
利用者からの相談	214
家族からの相談	117
関係機関等からの相談	61
関係機関との連携体制構築等	59
認知症初期集中支援チームとの連携	8
その他	459

認知症地域支援推進員活動状況（団体支援）

	延件数	参加人数等
西圏域	193	4,450

（３）成果・評価

- 認知症理解の普及啓発を目的に作成した認知症ケアパス及び認知症あんしんガイドを活用し、認知症の普及啓発に努めました。
- 福祉教育の一環として小学校にてキッズ認サポや校区福祉委員と協力し、高齢者疑似体験を行いました。
- 認知症カフェの特色を把握し、それぞれの活動に合わせた後方支援を行ないました。
認知症カフェの自立を目指し、当事者やボランティアのみでも活動出来るような体制作りを行いました。
- 認知症当事者の声を聞き、その声をもとにした活動を進めるため、令和6年度より本人ミーティングを月に一回開催しています。認知症の当事者が不安を吐露できる場になっており、自ら話ができる居場所の大切さを感じています。試行錯誤を繰り返しながらも運営ボランティアの提案を重視し、主体的に活動できるよう進めています。

（３）課題・今後の方針

- 毎年、各圏域のキャラバン・メイトが中心となって認知症サポーター養成講座を開催しています。「認知症について知りたい」という思いで受けられる方も多く、受講後の活動に繋がっていないことが課題であります。近隣の方への声掛けや認知症と思われる方へのさりげない対応などについても、しっかりと内容を盛り込みながら養成講座を開催していく事が重要であると思われまます。
- 認知症サポーター養成講座のステップアップ講座を開催し、認知症の人の引きこもりがちな生活を未然に防ぐ取り組みにつなげる「チームオレンジ」としての活動に繋げていけるよう、キャラバンメイトと協力しながら計画を立てていきます。
- 認知症の当事者やその家族の声を認知症施策に反映することや、当事者自身が自身のやりたいことを応援するといった視点が必要です。又周囲の方の理解も大きな力になると思われまます。認知症になっても社会とつながりながら、住み慣れた場所で安心して生活を送れるようなまちづくりをめざしていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
40,277,524 円	市委託料収入	2016年度

介護予防サービス計画の作成（指定介護予防支援事業）

（１）事業概要

要支援 1、要支援 2、事業対象者に認定された方々の自立支援をめざし、介護保険サービスや地域住民、ボランティアやインフォーマルサービスを組み込んだ計画を本人、家族、関係機関と調整しながら作成します。

（２）実施内容・実績

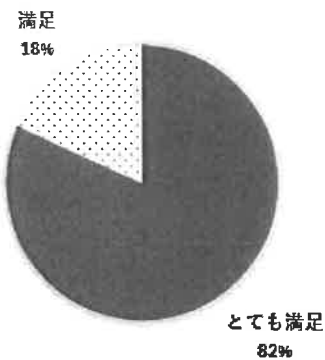
【ケアプラン作成件数】

- 総ケアプラン数 合計 4, 5 5 8 件
（包括作成数 1, 0 3 0 件 委託数 3, 5 2 8 件）

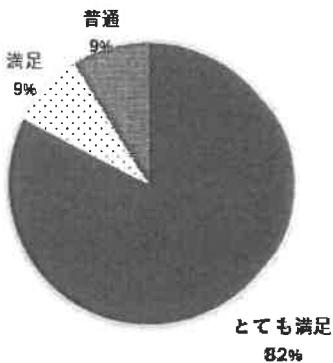
（３）成果・評価

- 総ケアプラン数は増、包括作成数が減少し、委託数が増加となりました。
- 総ケアプラン数は、包括開設当初から右肩上がり伸びてきています。令和 6 年 8 月より、地域包括支援センターを介さなくても、居宅介護事業所が直接利用者と契約できるようになったにも関わらず（居宅介護事業所との直接契約者は件数には含めない）、昨年度よりも 1 5 5 件増えています。
- 担当利用者へのアンケート結果（回答者 2 2 名）
包括で担当している利用者へのアンケートの結果、職員の対応に「とても満足」との答えが約 8 0 % ありました。

職員の受け答えは親切・丁寧ですか



困ったときにすぐに対応してくれたと感じますか



（４）課題・今後の方針

- 社会全体が少子高齢化に伴う担い手不足に陥っており、ケアマネジャーが不足している影響で、すぐにサービス利用ができない介護難民の問題が発生しています。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
20,212,921 円	介護保険事業収入	2 0 1 6 年度

認知症啓発事業業務（市受託事業）

（１）事業概要

令和6年度は新型コロナウイルスからの自粛モードから徐々に解放され、子どもから高齢者まで、誰もが参加出来る取り組みにも活気が復活し、多くの方の参加につながりました。世代を超えた交流の出来る居場所づくりをめざす事により、新たな認知症に対する理解の普及・啓発のため、屋外でできる活動を中心に取り組み、認知症の方にもやさしいまちづくりをめざします。

（２）実施内容・実績

【認知症普及・啓発業務】

プログラム	実施回数	実績
認知症講演会	1回	テーマ「口腔機能と認知症」
認知症カフェ	63回	認知症当事者も一緒につくる居場所づくり
ほうかつ GARDEN	通年実施	認知症当事者やとその家族、地域住民による花壇づくり
認知症当事者を含む共生型活動	18回	卓球クラブ中田会、おにぎり会、釣りプロジェクト
啓発イベントの開催	2回	アルツハイマー月間に合わせ、図書館にて認知症の関連する本とともに、認知症関連の活動内容を掲示
認知症ケアパスの周知	随時	認知症ケアパス（認知症について段階別に支援内容を記載したパンフレット）を、必要な方へ配布
小学生対象に高齢者疑似体験の実施	2回	小学生を対象に、高齢者疑似体験、及び校区福祉委員と交流する機会を持つ事で、子どもと高齢者が交流できる機会づくり

（３）成果・評価

- 認知症の方を含む参加者が自宅で閉じこもる事なく活動する事により、役割を持った日常生活を送る事が出来ました。
- 小学生を対象とした高齢者疑似体験は、年齢を重ねる事による日常生活の不自由さを子ども達に体感してもらう事で、より高齢者の気持ちになって考えるきっかけになりました。
- 包括ガーデンの活動は、認知症当事者及びその家族に穏やかに過ごせる時間を持つことにつながりました。自宅で閉じこもりになりがちな当事者にとっては、屋外での活動で役割を持ってもらうことで、当事者にとっても家族にとっても居心地の良い居場所となりました。

（４）課題・今後の方針

- 地域に住む住民と一緒に取り組む視点を継続し、認知症当事者の居場所づくりを進めていきます。
- 認知症カフェだけでなく、まちなかサロン・カフェにも、認知症当事者・ご家族が気軽に参加できるような体制作りをめざし、認知症の理解・普及・啓発を行っていきます。
- 子供のころから認知症の正しい理解を促すため、キッズ認サポを阪南市全域の小学校を対象に順次開催していく予定です。
- 当事者や家族、地域住民への新しい認知症感の普及が必要と思われます。「認知症とともに生きていく」といった新しい感覚を若い世代から持って頂けるような活動が求められています。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
71,000 円	認知症啓発事業業務委託収入	2018年度

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）配置促進事業（市受託事業）

（１）事業概要

地域における子どもの貧困や不登校の問題、ひきこもりなどに伴う社会的孤立や複数の福祉課題を抱える要援護者世帯を地域全体で支える地域福祉のセーフティネットづくりを進めます。関係機関や団体が参画する地域福祉ネットワークの構築をすすめ、地域の社会資源や住民団体等とも連携し、CSW 事業が有効に機能するよう取り組みます。

（２）実施内容・実績

○総合相談支援体制の構築

内容	件数	実績
総合相談(実件数)	1,110 件	「制度の狭間にある方」への伴走型相談支援、住民等と協働した身近な困りごとキャッチ、各種サービスの利用申請等
総合相談(実人数)	304 名	
相談の連携先	782 件	(一部抜粋) 家族：93 件、民生委員：73 件、市：201 件 教育機関：19 件、その他ケアマネ等 292 件
ほっこり相談	67 回	サロンへの出張相談、住民と協働した身近な困りごとキャッチ

○地域福祉ネットワークの構築と連携

・校区(地区)福祉委員、民生委員児童委員、地域福祉活動団体、福祉関係機関や地域住民、行政等とのネットワーク体制の構築。SSW と CSW の連携、子ども福祉委員の運営支援。

プログラム	回数	実績
ひきこもり・地域の居場所づくり支援 草の根ネットワークの会議	2 回	ひきこもり支援について行政・相談機関や関心のある方と協議
当事者・家族の会への参加	1 回	まんまの会（阪南市ひきこもり家族交流会）へ参加、CSW の啓発
児童分野に関する地域での居場所づくり	4 回	地域の子ども食堂・居場所へ参加

○社会参加・居場所づくり推進事業

・まちなかサロン・カフェをはじめとする地域への居場所への参加促進

プログラム	回数	実績
共生型サロン「きらきら」の運営支援	12 回	誰もが参加できる居場所として共生型サロンを毎月開催
ボッチャの定期開催「ボッチャ楽しも会」、出張開催	13 回	ボッチャを地域交流館体育館にて定期開催、地域のカフェ・サロンや団体への出張開催
漁福連携、農福連携への参加	4 回	釣りプロジェクトやおにぎり会、ふくし農園の活動に参加

○災害時要援護者支援推進事業（くらしの安心ダイヤル事業）への協力

新規申請数	41 件	校区（地区）福祉委員・民生児童委員との連携した要援護者の見守り、発見、相談等の協働支援、更新作業
相談対応件数	98 件	

○各種任意事業への協力

- ・緊急通報装置設置事業の訪問調査及び申請等の代行：新規申請数 11 件
- ・ふれあい収集事業の調査協力

○地域福祉計画策定及び推進事業

- ・地域福祉計画の策定や地域共生社会実現のための会議等への参加・協力

○重層的支援体制整備事業

- ・支援会議への出席
- ・各関係機関と関係を構築し、複合的な問題を抱えている世帯へのアプローチ

○東西包括、各関係機関との連携強化

プログラム	回数	実績
CSW 連絡会	12 回	市役所担当課、関係機関、東西包括 CSW の連絡会を毎月開催
泉州ブロック CSW 連絡会研修	1 回	和泉市以南の市町の CSW 担当者と情報交換、研修を実施
意見交換（まつのき園、社協権利擁護グループ、保健センター、社協生活支援グループ）	3 回	各相談機関の役割、困りごとを共有、意見交換を実施

（３） 成果・評価

- 個別相談は、ひきこもりや不登校に関する相談が家族やケアマネジャー、地域から増えており、相談窓口として以前よりも認知されてきていると実感しています。
- 共生型の居場所づくりとして進めてきたニュースポーツ：ボッチャを活用した居場所への関心が高まっており、社会参加を求めている方や福祉関係事業所、関係団体の参加が増加しています。また、地域からの出張依頼も増えています。
- ほっこり相談では、相談を目当てに普段来られない方が来てくれることもあり、身近な相談窓口として定着していると感じます。
- くらしの安心ダイヤル事業では、地域と協働でチラシを作成し、制度の啓発や更新作業を実施したことで、校区福祉活動の啓発にもつながりました。
- 各関係機関との意見交換を実施することにより、お互いの抱えている課題や連携における注意点などが明確になりつつあります。

（４） 課題・今後の方針

- 地域共生型の居場所づくり（きらきら、ボッチャ楽しも会）では、移送の問題もあり参加が難しい場合があるため、身近な圏域内における居場所の必要性を感じています。きらきらでは、参加者が減少しています。現在の参加者の居場所としての機能を維持し、ひきこもり当事者など居場所を必要とされる方へつながるように各関係機関、専門職を通じ、周知啓発に努めていきます。
- 潜在化している困りごとを掘り起こすために、地域や関係機関と連携が必要です。世代を問わず相談ができる専門職としての周知を広報等も活用し、継続していきます。
- 各相談機関と実施した意見交換から見えてきた課題をもとに、各相談機関が役割を明確にし、相談・支援の対応ができるよう重層的なネットワークづくりを進めていきます。
- くらしの安心ダイヤル事業ではランクに応じた見守り方法や更新の取り組みについて、地域によっては統一されておらず担当民生委員の裁量によるところがあるため、地域や対象者に応じた方法について体制を整えていく必要があります。
- 児童分野における関係機関との連携において、CSW としてのできる支援内容を明確にすることで、より相談しやすい体制づくりに努めます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
9,586,969 円	市委託料収入	2020年度

その他の会議・研修等

① 地域包括ケアに関連する会議

【会議名：阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会】 計4回

日 時	名 称 (主催/場所)	参加者
令和6年5月～2月	阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会 (阪南市/阪南市)	熊抱、大塚

【会議名：阪南市地域包括支援センター連絡会議】 計12回

日 時	名 称 (主催/場所)	参加者
令和6年4月～3月	阪南市・地域包括支援センター連絡会 (阪南市/阪南市)	熊抱、大塚

【会議名：3市3町地域包括支援センター情報交換会】 計1回

日 時	名 称 (主催/場所)	参加者
令和6年2月	3市3町地域包括支援センター連絡会 (3市3町地域包括支援センター連絡会/泉佐野市立社会福祉センター)	大塚、寺井

【会議名：阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議】 計12回

日 時	名 称 (主催/場所)	参加者
令和6年4月～3月	阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議 (西鳥取・下荘地域包括支援センター/同センター内)	職員複数名

【会議名：校区福祉委員会委員長事務長会議】 計5回

日 時	名 称 (主催/場所)	参加者
令和6年5月～3月	校区福祉委員会校区長事務長会議 (阪南市社会福祉協議会/地域交流館)	熊抱、大塚

【会議名：難病患者支援ネットワーク会議】 計1回

日 時	名 称 (主催/場所)	参加者
令和6年10月24日	難病患者支援ネットワーク会議 (大阪府泉佐野保健所/泉佐野保健所)	大塚

【会議名：泉州がん診療連携（ネットワーク会議）協議会】 計1回

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和7年1月30日	泉州がん診療連携（ネットワーク会議）協議会（泉州がん診療連携（ネットワーク会議）協議会緩和ケア部会／岸和田市民病院）	大塚

【会議名：泉州南圏域医療・介護連携推進会議】 計1回

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和7年2月15日	泉州南圏域医療・介護連携推進会議（泉州南圏域医療・介護連携推進会議／りんくう教育研修棟）	大塚

② その他、関連する研修等

【資質向上、新任研修会等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和6年6月20日	認知症講演会（阪南市/防災コミュニティセンター）	大塚、寺井
令和6年11月19日	近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会大阪セミナー（近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会／大阪国際交流センター）	大塚
令和6年12月7日	高齢化社会を共に生きる（日本生命財団/オンライン）	関
令和7年2月1日	ひきこもり・地域の居場所づくり講座（尾崎公民館/尾崎公民館）	吉川

【地域包括ケアに関連する研修等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和6年4月20日	大阪府介護支援専門員研修（大阪府介護支援専門員協会 泉州南支部/サラダホール）	寺井
令和6年9月18日	阪南市自立支援型ケアマネジメント検討会研修会（阪南市／阪南市会議室）	寺井
令和6年11月16日	大阪府介護支援専門員研修（大阪府介護支援専門員協会泉州南支部／防災コミュニティセンター）	寺井

【医師会・在宅医療関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和6年8月10日	3市3町医療・介護多職種連携研修会（泉佐野泉南医師会・3市3町行政／りんくう研修棟）	渡辺
令和7年2月13日	大阪府在宅医療総合支援事業 在宅医療・介護推進に係る多職種研修会（大阪府医師会／オンライン）	渡辺
令和7年2月15日	3市3町医療・介護多職種連携研修会（泉佐野泉南医師会・3市3町行政／りんくう研修棟）	大塚

【認知症関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和6年8月26～27日	令和6年度 認知症地域支援推進員現任研修（認知症介護研究・研修東京センター／オンライン）	西崎
令和6年10月16日	令和6年度 認知症地域支援推進員連絡会	西崎
令和6年11月15日	チームオレンジコーディネーター研修（大阪府福祉部/大阪赤十字会館）	西崎
令和6年11月26日	令和6年度【公共事業所向け】認知症への理解増進セミナー（大阪府福祉部/大阪赤十字会館）	西崎
令和7年2月4日	認知症初期集中支援チームフォローアップ研修（大阪府／オンライン）	西崎、関、大塚
令和7年2月8日	認知症サミット（泉佐野泉南医師会／スターゲイトホテル関西エアポート）	大塚、西崎
令和7年2月26日	大阪府認知症キャラバンメイト養成研修（大阪府/ホテルアウリーナ大阪）	関
令和7年3月3日	令和6年度 認知症地域支援推進員フォローアップ研修（大阪府福祉部/大阪赤十字会館）	西崎

【人権、権利擁護、虐待関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和6年9月27日	阪南市在宅支援専門職向け高齢者虐待対応研修	大塚、寺井、茂野
令和6年7月23日	人権ヒューマンライツセミナー（阪南市／サラダホール）	濱中
令和6年8月9日	人権ヒューマンライツセミナー（阪南市／サラダホール）	渡辺

令和6年8月23日	人権ヒューマンライツセミナー (阪南市／サラダホール)	吉川
令和7年3月17日	介護支援専門員資質向上(法定外)研修(尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／サラダホール)	寺井、茂野、関

【講師協力、視察研修、実習受け入れ等】

日 時	名 称 (主催／場所)	対応
令和6年6月15日	日本地域福祉学会第38回大会(日本福祉学会／文京学院大学本郷キャンパス)	熊抱
令和7年2月25日	九州管区行政評価局・福岡県飯塚市から視察「箱の浦医療福祉連携協議会について」(箱の浦まちづくり協議会/箱の浦サロン)	大塚・船津
令和7年2月27日	明星大学人文学部福祉実勢学科 山井 理恵氏視察「認知症の方の社会参加について」(西鳥取・下荘地域包括支援センター/西鳥取・下荘地域包括支援センター)	大塚、西崎
令和6年8月～11月	泉佐野泉南医師会看護専門学校1・3年生実習(泉佐野泉南医師会看護専門学校／泉佐野泉南医師会看護専門学校・西鳥取・下荘地域包括支援センター)	大塚

不動産賃貸事業

(1) 事業概要

収益事業として法人が有する不動産を貸出し、得た賃料を自主財源として法人運営等に活用することで、法人の安定した運営を目指します。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 自然田土地の賃貸事業
- 尾崎駅前土地の賃貸事業
- 尾崎駅前建物の賃貸事業

【実績】

内 訳	金 額	実 績
自然田土地受取地代	150,000 円/月額	1,800,000 円
尾崎駅前土地受取地代	77,000 円/月額	924,000 円
尾崎駅前建物受取家賃	49,500 円/月額	594,000 円

(3) 課題・今後の方針

継続して、賃貸料を得られるよう管理運営を行います。

事業費総額 (円)	財 源	事業開始年度
3,318,192 円	不動産賃貸事業収入	令和 2 年 4 月